

0001

失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：基礎

問題

「言語症状・モダリティ」の定義識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：喚語困難を整理する：構音障害
イ：音韻性錯語を識別できる：新造語
ウ：意味性錯語を識別できる：音韻性錯語
エ：失語症の定義を整理する：脳損傷などにより、いったん獲得された言語の理解や表出が障害された状態

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。構音障害は発音運動の障害であり、語検索とは異なる。
イ：この対応は不適切である。既存語として認めにくい語全体を作る症状である。
ウ：この対応は不適切である。音の構成の誤りが中心である。
エ：この対応は適切である。失語症は後天性の言語障害で、話す・聞く・読む・書くなど複数モダリティに影響し得る。

総合解説：失語症では言語の形式・内容・使用が障害され、口頭言語だけでなく読み書きにも影響することがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0002

失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：標準

問題

「言語症状・モダリティ」について喚語困難を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：音韻性錯語を識別できる：音韻性錯語
イ：喚語困難を整理する：半側空間無視
ウ：意味性錯語を識別できる：意味性錯語
エ：流暢性・理解・復唱を組み合わせで症候を捉える：発話の流暢性、聴覚的理解、復唱

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。目標語の音素の置換・省略・転置などが起こる錯語を音韻性錯語という。
イ：この対応が誤りである。空間性注意障害であり喚語困難とは異なる。
ウ：この対応は正しい。意味的に関連する実在語への置換は意味性錯語である。
エ：この対応は正しい。古典的分類では流暢性・理解・復唱の組合せが主要な手がかりとなる。

総合解説：喚語困難は多くの失語型でみられる基本症状で、呼称や会話で顕在化する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0003

失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：基礎

問題

言語症状・モダリティの学習で錯語識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：音韻性錯語を識別できる：音韻性錯語
イ：意味性錯語を識別できる：音韻性錯語
ウ：流暢性・理解・復唱を組み合わせで症候を捉える：血圧、脈拍、体温
エ：新造語とジャルゴンを整理する：失声

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。目標語の音素の置換・省略・転置などが起こる錯語を音韻性錯語という。
イ：この対応は不適切である。音の構成の誤りが中心である。
ウ：この対応は不適切である。全身状態評価には重要だが失語型分類の中核ではない。
エ：この対応は不適切である。声が出ない音声障害である。

総合解説：音韻性錯語は伝導失語などで目立つが、特定の失語型だけに限定されない。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0004

失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：標準

問題

「言語症状・モダリティ」に関する知識を横断して確認する。意味性錯語を識別できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：流暢性・理解・復唱を組み合わせで症候を捉える：発話の流暢性、聴覚的理解、復唱
イ：新造語とジャルゴンを整理する：新造語を含むジャルゴン
ウ：意味性錯語を識別できる：音声障害
エ：失文法を整理する：失文法（アグラマティズム）

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。古典的分類では流暢性・理解・復唱の組合せが主要な手がかりとなる。
イ：この対応は正しい。新造語が多発し、実在語も含めて内容が理解しにくい発話はジャルゴンと呼ばれることがある。
ウ：この対応が誤りである。声質の障害であり語選択の誤りではない。
エ：この対応は正しい。文法形態素や統語構造の使用が乏しくなる症状である。

総合解説：意味性錯語は語彙意味ネットワークや語検索の障害を反映し得る。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0005

失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：応用

問題

言語症状・モダリティの関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 失文法を整理する：語彙 / 言語モダリティ間の障害差を整理する：失語症では読み書きは必ず正常だから

イ： 失語症と構音障害を区別できる：失語症よりも運動性構音障害をまず考える / 自己修正と病識を観察する意義を整理する：脳画像を不要にできる

ウ： 流暢性・理解・復唱を組み合わせる：発話の流暢性、聴覚的理解、復唱 / 新造語とジャルゴンを整理する：新造語を含むジャルゴン

エ： 失語症の定義を整理する：声帯病変による嚥声だけを指す / 喚語困難を整理する：喚語困難（失名辞）

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 話しことばの理解に選択的な障害を示す概念である。 読み書きも障害され得る。

イ： は正しいが に誤りがある。 病因評価には画像等が必要な場合がある。

ウ： とも正しい。 古典的分類では流暢性・理解・復唱の組合せが主要な手がかりとなる。 新造語が多発し、実在語も含めて内容が理解しにくい発話はジャルゴンと呼ばれることがある。

エ： に誤りがある。 これは音声障害であり失語症ではない。 は正しい。

総合解説：実臨床では呼称、読み書き、談話、認知機能なども含めて総合評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0006

失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：標準

問題

「言語症状・モダリティ」について新造語とジャルゴンを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：失文法を整理する：失文法（アグラマティズム）

イ：言語モダリティ間の障害差を整理する：言語モダリティごとに障害の程度や誤り方が異なることがあるため

ウ：新造語とジャルゴンを整理する：構音失行

エ：失語症と構音障害を区別できる：失語症よりも運動性構音障害をまず考える

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。文法形態素や統語構造の使用が乏しくなる症状である。

イ：この対応は正しい。失語症は複数の言語モダリティに影響するが、そのプロフィールは様々ではない。

ウ：この対応が誤りである。発話運動プログラミングの障害である。

エ：この対応は正しい。言語内容が保たれ、発話の運動実行に主な問題がある場合は構音障害が示唆される。

総合解説：ジャルゴンは流暢性失語でみられることがあり、自己修正の乏しさを伴う場合もある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0007

失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：基礎

問題

言語症状・モダリティの学習で文法症候の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：言語モダリティ間の障害差を整理する：失語症では読み書きは必ず正常だから
イ：失語症と構音障害を区別できる：純粹失読
ウ：失文法を整理する：失文法（アグラマティズム）
エ：自己修正と病識を観察する意義を整理する：聴力閾値を直接決定できる

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。読み書きも障害され得る。
イ：この対応は不適切である。主に読みの障害である。
ウ：この対応は適切である。文法形態素や統語構造の使用が乏しくなる症状である。
エ：この対応は不適切である。聴力検査の代用にはならない。

総合解説：失文法は非流暢性失語でみられやすいが、症候の程度や表れ方には個人差がある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0008

失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：標準

問題

「言語症状・モダリティ」に関する知識を横断して確認する。言語モダリティ間の障害差を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：言語モダリティ間の障害差を整理する：口頭言語だけで病巣を完全に確定できるから
イ：失語症と構音障害を区別できる：失語症よりも運動性構音障害をまず考える
ウ：自己修正と病識を観察する意義を整理する：自己モニタリングやコミュニケーション修復能力を把握できる
エ：失語症の定義を整理する：脳損傷などにより、いったん獲得された言語の理解や表出が障害された状態

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。病巣推定にも総合的な情報が必要である。
イ：この対応は正しい。言語内容が保たれ、発話の運動実行に主な問題がある場合は構音障害が示唆される。
ウ：この対応は正しい。誤りへの気づきと修復は日常コミュニケーションや訓練方略に関係する。
エ：この対応は正しい。失語症は後天性の言語障害で、話す・聞く・読む・書くなど複数モダリティに影響し得る。

総合解説：モダリティ別プロフィールは訓練目標や代償手段の選択にも重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0009失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：応用

問題
「言語症状・モダリティ」について失語症と構音障害を区別できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア：失語症と構音障害を区別できる：失語症よりも運動性構音障害をまず考える / 自己修正と病識を観察する意義を整理する：自己モニタリングやコミュニケーション修復能力を把握できる
イ：失語症の定義を整理する：発声筋の筋力低下だけで発音が不明瞭になる状態 / 喚語困難を整理する：半側空間無視
ウ：音韻性錯語を識別できる：音韻性錯語 / 意味性錯語を識別できる：音韻性錯語
エ：流暢性・理解・復唱を組み合わせる：症候を捉える：血圧、脈拍、体温 / 新造語とジャルゴンを整理する：新造語を含むジャルゴン

答え・解説正答：ア

ア：とも正しい。言語内容が保たれ、発話の運動実行に主な問題がある場合は構音障害が示唆される。誤りへの気づきと修復は日常コミュニケーションや訓練方略に関係する。
イ：に誤りを含む。これは主に運動性構音障害の説明である。空間性注意障害であり喚語困難とは異なる。
ウ：は正しいがに誤りがある。音の構成の誤りが中心である。
エ：に誤りがある。全身状態評価には重要だが失語型分類の中核ではない。は正しい。

総合解説：失語症は言語障害、構音障害は発話運動障害であり、併存することもあるため両面を評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0010失語症の基礎・症候 > 言語症状・モダリティ | 難易度：標準

問題
「言語症状・モダリティ」について自己修正と病識を観察する意義を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：自己修正と病識を観察する意義を整理する：失語症の有無の一つの所見だけで確定できる
イ：失語症の定義を整理する：脳損傷などにより、いったん獲得された言語の理解や表出が障害された状態
ウ：喚語困難を整理する：喚語困難（失名辞）
エ：音韻性錯語を識別できる：音韻性錯語

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。総合評価が必要である。
イ：この対応は正しい。失語症は後天性の言語障害で、話す・聞く・読む・書くなど複数モダリティに影響し得る。
ウ：この対応は正しい。語の意味概念は比較的保たれていても、語形の検索が困難な状態を喚語困難という。
エ：この対応は正しい。目標語の音素の置換・省略・転置などが起こる錯語を音韻性錯語という。

総合解説：会話での自己修正、身振り利用、聞き返しなどは機能的コミュニケーションの重要な観察点である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0011

失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：基礎

問題

失語型・病巣の学習で失語型識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：Broca失語の典型像を整理する：非流暢で努力性の発話が目立ち、理解は発話に比べ比較的保たれる
イ：Wernicke失語の典型像を整理する：超皮質性運動失語
ウ：伝導失語の特徴を整理する：視力低下
エ：全失語の重症像を整理する：純粹失読

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。Broca失語は非流暢性・努力性発話の特徴とし、理解は相対的に保たれることが多い。
イ：この対応は不適切である。非流暢性で復唱が比較的保たれる。
ウ：この対応は不適切である。伝導失語の中核症状ではない。
エ：この対応は不適切である。読みの選択的障害である。

総合解説：古典的には左下前頭回周辺病変と関連するが、実際の症候は病変範囲やネットワークで変化する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0012

失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：標準

問題

「失語型・病巣」に関する知識を横断して確認する。Wernicke失語の典型像を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：伝導失語の特徴を整理する：復唱障害
イ：全失語の重症像を整理する：全失語
ウ：超皮質性失語の共通特徴を整理する：復唱
エ：Wernicke失語の典型像を整理する：Broca失語

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。伝導失語は流暢性と理解が比較的保たれる一方、復唱障害と音韻性錯語が特徴的である。
イ：この対応は正しい。全失語では言語の理解・表出が広範に重度障害される。
ウ：この対応は正しい。超皮質性失語では周辺連合野との結合が障害されても、言語中枢間の復唱回路が比較的保たれることがある。
エ：この対応が誤りである。通常は非流暢性が目立つ。

総合解説：古典的には優位半球後部上側頭回周辺病変と関連する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0013

失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：基礎

問題

「失語型・病巣」の失語型識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：伝導失語の特徴を整理する：復唱障害
イ：全失語の重症像を整理する：純粹失読
ウ：超皮質性失語の共通特徴を整理する：聴覚的理解
エ：超皮質性運動失語を識別できる：全失語

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。伝導失語は流暢性と理解が比較的保たれる一方、復唱障害と音韻性錯語が特徴的である。
イ：この対応は不適切である。読みの選択的障害である。
ウ：この対応は不適切である。超皮質性感覚失語では低下する。
エ：この対応は不適切である。復唱を含め広範に重度障害となる。

総合解説：古典的弓状束モデルだけでなく、現在は左側頭頭頂接合部を含む背側言語ネットワークの障害として理解される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0014

失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：標準

問題

「失語型・病巣」について全失語の重症像を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：超皮質性失語の共通特徴を整理する：復唱
イ：全失語の重症像を整理する：伝導失語
ウ：超皮質性運動失語を識別できる：超皮質性運動失語
エ：失名辞失語の特徴を整理する：喚語困難

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。超皮質性失語では周辺連合野との結合が障害されても、言語中枢間の復唱回路が比較的保たれることがある。
イ：この対応が誤りである。理解や自発話は比較的保たれる。
ウ：この対応は正しい。非流暢性と自発話低下に対し復唱が保たれるのが典型である。
エ：この対応は正しい。失名辞失語では流暢性・理解・復唱が比較的保たれ、喚語困難が目立つ。

総合解説：広範な優位半球中大脳脈領域病変などで生じることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0015失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：応用

問題

「失語型・病巣」について超皮質性失語の共通特徴を理解するため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 失名辞失語の特徴を整理する：発声不能 / 優位半球と言語機能の関係を整理する：右小脳だけ

イ： MCA領域と言語症候を症例から推定できる：左中大脳動脈領域 / 古典的局在論の限界を整理する：すべての失語型は一つの点状病変だけで完全に決まる

ウ： Broca失語の典型像を整理する：話す・聞く・読む・書くがいずれもほぼ正常 / Wernicke失語の典型像を整理する：Wernicke失語

エ： 超皮質性失語の共通特徴を整理する：復唱 / 超皮質性運動失語を識別できる：超皮質性運動失語

答え・解説正答：エ

ア： に誤りを含む。 音声障害である。 右小脳単独病変は典型的失語症の主病巣ではない。

イ： は正しいが に誤りがある。 実際にはネットワークや病変範囲が関与する。

ウ： に誤りがある。 失語症の典型ではない。 は正しい。

エ： とも正しい。 超皮質性失語では周辺連合野との結合が障害されても、言語中枢間の復唱回路が比較的保たれることがある。 非流暢性と自発話低下に対し復唱が保たれるのが典型である。

総合解説：復唱の保たれ方は、超皮質性失語とBroca/Wernicke失語を区別する重要な手がかりとなる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0016失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：標準

問題

「失語型・病巣」に関する知識を横断して確認する。超皮質性運動失語を識別できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：失名辞失語の特徴を整理する：喚語困難

イ：優位半球と言語機能の関係を整理する：左大脳半球の言語ネットワーク

ウ：MCA領域と言語症候を症例から推定できる：左中大脳動脈領域

エ：超皮質性運動失語を識別できる：伝導失語

答え・解説正答：エ

ア：この対応は正しい。失名辞失語では流暢性・理解・復唱が比較的保たれ、喚語困難が目立つ。

イ：この対応は正しい。多くの人では言語機能は左半球優位である。

ウ：この対応は正しい。左中大脳動脈領域は運動野と主要な言語ネットワークを含み、右片麻痺と失語を同時に生じ得る。

エ：この対応が誤りである。復唱が低下する。

総合解説：前頭葉内側部や前方境界域を含む病変などでみられることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0017

失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：基礎

問題
「失語型・病巣」の失語型知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。ここでは「失名辞失語・喚語困難」との関連を手掛かりに整理する。

- ア：優位半球と言語機能の関係を整理する：右小脳だけ
- イ：MCA領域と言語症候を症例から推定できる：脊髄前動脈だけ
- ウ：古典的局在論の限界を整理する：病巣と症状には一切関係がない
- エ：失名辞失語の特徴を整理する：喚語困難

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は不適切である。右小脳単独病変は典型的失語症の主病巣ではない。
- イ：この対応は不適切である。失語症を生じない。
- ウ：この対応は不適切である。一定の関連は臨床的に重要である。
- エ：この対応は適切である。失名辞失語では流暢性・理解・復唱が比較的保たれ、喚語困難が目立つ。

総合解説：失名辞は多くの失語症の回復過程でも残存しやすい症状である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0018

失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：標準

問題
「失語型・病巣」について優位半球と言語機能の関係を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：MCA領域と言語症候を症例から推定できる：左中大脳動脈領域
- イ：優位半球と言語機能の関係を整理する：脊髄腰髄だけ
- ウ：古典的局在論の限界を整理する：古典的対応は有用だが、実際の言語症状は分散したネットワークと病変範囲の影響を受ける
- エ：Broca失語の典型像を整理する：非流暢で努力性の発話が目立ち、理解は発話に比べ比較的保たれる

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。左中大脳動脈領域は運動野と主要な言語ネットワークを含み、右片麻痺と失語を同時に生じ得る。
- イ：この対応が誤りである。言語中枢は大脳にある。
- ウ：この対応は正しい。Broca野やWernicke野だけで全症状を説明することには限界がある。
- エ：この対応は正しい。Broca失語は非流暢性・努力性発話の特徴とし、理解は相対的に保たれることが多い。

総合解説：言語優位半球には個人差があり、利き手だけで絶対的に決定することはできない。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0019失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：応用

問題

「失語型・病巣」の病巣症例について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： Broca失語の典型像を整理する：流暢だが理解が著しく低下し、内容の乏しい発話 / Wernicke失語の典型像を整理する：Broca失語

イ： 伝導失語の特徴を整理する：復唱障害 / 全失語の重症像を整理する：純粹失読

ウ： 超皮質性失語の共通特徴を整理する：聴覚的理解 / 超皮質性運動失語を識別できる：超皮質性運動失語

エ： MCA領域と言語症候を症例から推定できる：左中大脳動脈領域 / 古典的局在論の限界を整理する：古典的対応は有用だが、実際の言語症状は分散したネットワークと病変範囲の影響を受ける

0020失語症の基礎・症候 > 失語型・病巣 | 難易度：標準

問題

「失語型・病巣」に関する知識を横断して確認する。古典的局在論の限界を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア： Broca失語の典型像を整理する：非流暢で努力性の発話が目立ち、理解は発話に比べ比較的保たれる

イ： Wernicke失語の典型像を整理する：Wernicke失語

ウ： 古典的局在論の限界を整理する：脳画像だけで言語能力を完全評価できる

エ： 伝導失語の特徴を整理する：復唱障害

答え・解説正答：エ

ア： に誤りを含む。 Wernicke失語に典型的である。 通常は非流暢性が目立つ。

イ： は正しいが に誤りがある。 読みの選択的障害である。

ウ： に誤りがある。 超皮質性感覚失語では低下する。 は正しい。

エ： とも正しい。 左中大脳動脈領域は運動野と主要な言語ネットワークを含み、右片麻痺と失語を同時に生じ得る。 Broca野やWernicke野だけで全症状を説明することには限界がある。

総合解説：急性失語は脳卒中中の重要な警告症状であり、発症時刻を確認して緊急対応する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説正答：ウ

ア： この対応は正しい。 Broca失語は非流暢性・努力性発話の特徴とし、理解は相対的に保たれることが多い。

イ： この対応は正しい。 Wernicke失語では流暢性は保たれる一方、理解障害と錯語が目立つ。

ウ： この対応が誤りである。言語機能の臨床評価が不可欠である。

エ： この対応は正しい。伝導失語は流暢性と理解が比較的保たれる一方、復唱障害と音韻性錯語が特徴的である。

総合解説：病巣情報は症候理解に役立つが、臨床プロフィールと合わせて解釈する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0021失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：基礎

問題「失読失書・関連症状」の定義識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：失書の定義を整理する：感音難聴
イ：純粹失読の特徴を整理する：読みは正常で書字だけが障害
ウ：失読失書と角回病変の関係を整理する：一次運動野の下肢領域だけ
エ：失読の定義を整理する：脳損傷後に、以前可能だった文字・単語・文章の読みが障害された状態

答え・解説正答：エ

ア：この対応は不適切である。聴覚障害である。
イ：この対応は不適切である。純粹失書の説明に近い。
ウ：この対応は不適切である。読み書きの中枢処理を説明しにくい。
エ：この対応は適切である。失読は後天性の読み障害で、視力低下や未学習だけでは説明できない。

総合解説：失読の評価では文字認知、音読、読解、視野、失語症の有無などを調べる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0022失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：標準

問題「失読失書・関連症状」について失書の定義を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：純粹失読の特徴を整理する：自分で書くことはできても、書いた文字を読むことが難しい
イ：失書の定義を整理する：失声
ウ：失読失書と角回病変の関係を整理する：優位半球の角回を含む頭頂側頭領域
エ：Gerstmann症候群を整理する：Gerstmann症候群

答え・解説正答：イ

ア：この対応は正しい。純粹失読では書字が比較的保たれる一方、視覚入力から文字言語へのアクセスが障害される。
イ：この対応が誤りである。発声障害である。
ウ：この対応は正しい。角回周辺病変は失読失書と関連する。
エ：この対応は正しい。Gerstmann症候群は優位半球頭頂葉病変でみられる古典的症候群である。

総合解説：失書には言語処理に由来する中枢性失書と、書字運動・視空間過程に関わる末梢性失書がある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0023

失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：基礎

問題

失読失書・関連症状の学習で症候知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：失読失書と角回病変の関係を整理する：一次運動野の下肢領域だけ
イ：Gerstmann症候群を整理する：Balint症候群
ウ：純粋失読の特徴を整理する：自分で書くことはできても、書いた文字を読むことが難しい
エ：失語症と発語失行を区別する：語の意味理解だけが障害される言語障害

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。読み書きの中枢処理を説明しにくい。
イ：この対応は不適切である。視覚性注意・視覚運動協調の症候群である。
ウ：この対応は適切である。純粋失読では書字が比較的保たれる一方、視覚入力から文字言語へのアクセスが障害される。
エ：この対応は不適切である。失語症の意味処理障害に近い。

総合解説：左後頭葉と脳梁膨大部を含む病変による離断症候群として古典的に知られる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0024

失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：標準

問題

「失読失書・関連症状」に関する知識を横断して確認する。失読失書と角回病変の関係を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：失読失書と角回病変の関係を整理する：末梢正中神経だけ
イ：Gerstmann症候群を整理する：Gerstmann症候群
ウ：失語症と発語失行を区別する：発話に必要な運動プログラミング・プランニングの障害で、言語知識そのものの障害とは区別される
エ：失語症と失算の関連を整理する：脳損傷後に計算能力が障害される状態で、失語や頭頂葉症状と併存することがある

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。手の運動には影響しても言語的な読み障害を生じない。
イ：この対応は正しい。Gerstmann症候群は優位半球頭頂葉病変でみられる古典的症候群である。
ウ：この対応は正しい。発語失行は発話運動計画の障害であり、失語症と併存することがある。
エ：この対応は正しい。失算は獲得済み計算能力の後天性障害である。

総合解説：読み書き障害は病巣だけでなく、失語・視覚・注意・運動機能との関係も評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0025

失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：応用

問題

「失読失書・関連症状」の関連症候複合判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 失語症と失算の関連を整理する：必ず数学教育を受けていないことを意味する / 視野障害と純粹失読の関係を整理する：嗅覚過敏

イ： 読み障害の鑑別を症例から判断できる：純粹失読 / 関連症状を失語評価に統合する：失語検査だけで全高次脳機能を完全評価できるため

ウ： Gerstmann症候群を整理する：Gerstmann症候群 / 失語症と発語失行を区別する：発話に必要な運動プログラミング・プランニングの障害で、言語知識そのものの障害とは区別される

エ： 失読の定義を整理する：生来の読み習得困難だけを指す / 失書の定義を整理する：失書（agraphia）

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 教育歴とは区別される。 代表的な併存症状ではない。

イ： は正しいが に誤りがある。 必要に応じ他検査や他職種評価が必要である。

ウ： とも正しい。 Gerstmann症候群は優位半球頭頂葉病変でみられる古典的症候群である。 発語失行は発話運動計画の障害であり、失語症と併存することがある。

エ： に誤りがある。 発達性読み障害とは区別される。 は正しい。

総合解説：Gerstmann症候群は完全な4徴を示さないこともあり、他の失語・失行を伴う場合がある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0026

失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：標準

問題

「失読失書・関連症状」について失語症と発語失行を区別するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：失語症と失算の関連を整理する：脳損傷後に計算能力が障害される状態で、失語や頭頂葉症状と併存することがある

イ：失語症と発語失行を区別する：聴覚閾値上昇による聞き取り低下

ウ：視野障害と純粹失読の関係を整理する：右同名半盲

エ：読み障害の鑑別を症例から判断できる：純粹失読

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。失算は獲得済み計算能力の後天性障害である。

イ：この対応が誤りである。聴覚障害である。

ウ：この対応は正しい。左後頭葉病変により右視野障害を伴うことがある。

エ：この対応は正しい。文字ごとの逐次読みと語長効果、書字の相対的保存は純粹失読に典型的である。

総合解説：発話誤りの一貫性、探索行動、韻律などを観察し、構音障害・失語症と鑑別する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0027

失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：基礎

問題

失読失書・関連症状の学習で関連症状知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。ここでは「失算・関連症状」との関連を手掛かりに整理する。

ア：視野障害と純粋失読の関係を整理する：嗅覚過敏
イ：読み障害の鑑別を症例から判断できる：運動性構音障害
ウ：失語症と失算の関連を整理する：脳損傷後に計算能力が障害される状態で、失語や頭頂葉症状と併存することがある
エ：関連症状を失語評価に統合する：併存症状は訓練計画に関係しないため

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。代表的な併存症状ではない。
イ：この対応は不適切である。読み理解や文字認知の障害を説明しない。
ウ：この対応は適切である。失算は獲得済み計算能力の後天性障害である。
エ：この対応は不適切である。支援方法に大きく影響する。

総合解説：計算には数概念、言語、視空間、注意、遂行機能など複数過程が関与する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0028

失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：標準

問題

「失読失書・関連症状」に関する知識を横断して確認する。視野障害と純粋失読の関係を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：読み障害の鑑別を症例から判断できる：純粋失読
イ：視野障害と純粋失読の関係を整理する：左下肢のみの末梢神経障害
ウ：関連症状を失語評価に統合する：言語検査の遂行や日常コミュニケーションに影響し、誤った解釈を招く可能性があるため
エ：失読の定義を整理する：脳損傷後に、以前可能だった文字・単語・文章の読みが障害された状態

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。文字ごとの逐次読みと語長効果、書字の相対的保存は純粋失読に典型的である。
イ：この対応が誤りである。純粋失読との典型的関連はない。
ウ：この対応は正しい。非言語性の高次脳機能障害が検査反応や代償手段の利用に影響する。
エ：この対応は正しい。失読は後天性の読み障害で、視力低下や未学習だけでは説明できない。

総合解説：読みの障害が視野障害だけで説明できるか、文字言語処理障害があるかを分けて評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0029失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：応用

問題失読失書・関連症状の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：失読の定義を整理する：声がかすれる状態 / 失書の定義を整理する：失声
イ：読み障害の鑑別を症例から判断できる：純粹失読 / 関連症状を失語評価に統合する：言語検査の遂行や日常コミュニケーションに影響し、誤った解釈を招く可能性があるため
ウ：純粹失読の特徴を整理する：自分で書くことはできても、書いた文字を読むことが難しい / 失読失書と角回病変の関係を整理する：一次運動野の下肢領域だけ
エ：Gerstmann症候群を整理する：Balint症候群 / 失語症と発語失行を区別する：発話に必要な運動プログラミング・プランニングの障害で、言語知識そのものの障害とは区別される

答え・解説正答：イ

ア：に誤りを含む。嚥声である。発声障害である。
イ：とも正しい。文字ごとの逐次読みと語長効果、書字の相対的保存は純粹失読に典型的である。非言語性の高次脳機能障害が検査反応や代償手段の利用に影響する。
ウ：は正しいがに誤りがある。読み書きの中枢処理を説明しにくい。
エ：に誤りがある。視覚性注意・視覚運動協調の症候群である。は正しい。

総合解説：評価では視野、文字認知、音読、読解、書字、口頭言語を総合して確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0030失語症の基礎・症候 > 失読失書・関連症状 | 難易度：標準

問題「失読失書・関連症状」について関連症状を失語評価に統合するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：失読の定義を整理する：脳損傷後に、以前可能だった文字・単語・文章の読みが障害された状態
イ：関連症状を失語評価に統合する：失語症では他の高次脳機能障害は絶対に併存しないため
ウ：失書の定義を整理する：失書（agraphia）
エ：純粹失読の特徴を整理する：自分で書くことはできても、書いた文字を読むことが難しい

答え・解説正答：イ

ア：この対応は正しい。失読は後天性の読み障害で、視力低下や未学習だけでは説明できない。
イ：この対応が誤りである。脳損傷では併存することがある。
ウ：この対応は正しい。失書は後天的に獲得済みの書字能力が障害された状態である。
エ：この対応は正しい。純粹失読では書字が比較的保たれる一方、視覚入力から文字言語へのアクセスが障害される。

総合解説：言語症状を孤立してみず、注意・視覚認知・行為・記憶などの併存障害を含めて把握する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0031失語症の評価 > 面接・スクリーニング | 難易度：基礎

問題

面接・スクリーニングの学習で評価原則の知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：病歴聴取で発症様式を確認する意義を整理する：発症様式は訓練計画に一切影響しないから

イ：スクリーニングの目的を整理する：詳細評価の必要性を判断し、適切な紹介や精査につなげる

ウ：発症前の言語能力を確認する意義を整理する：全員の発症前言語能力は同じだから

エ：聴覚・視覚状態を確認する必要性を整理する：感覚障害は言語検査に全く影響しないため

答え・解説正答：イ

ア：この対応は不適切である。病期や原因により目標や予後が変わる。

イ：この対応は適切である。スクリーニングは失語症の詳細なプロフィールや重症度を確定する検査ではなく、精査の必要性を判断する。

ウ：この対応は不適切である。個人差が大きい。

エ：この対応は不適切である。実際には大きく影響し得る。

総合解説：スクリーニング後は必要に応じ標準検査、会話評価、認知・聴覚・運動面の評価へ進む。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0032失語症の評価 > 面接・スクリーニング | 難易度：標準

問題

「面接・スクリーニング」に関する知識を横断して確認する。病歴聴取で発症様式を確認する意義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：発症前の言語能力を確認する意義を整理する：現在の成績を発症前能力や生活要求と照らして解釈するため

イ：聴覚・視覚状態を確認する必要性を整理する：感覚障害による失敗を言語障害と誤って判断するのを避けるため

ウ：スクリーニング結果を包括評価につなげる：失語症を疑い、標準検査や会話・読み書きを含む包括的言語評価を行う

エ：病歴聴取で発症様式を確認する意義を整理する：発症時刻だけで失語型を完全確定できるから

答え・解説正答：エ

ア：この対応は正しい。失語症は獲得済み言語能力の障害であり、発症前の能力や使用状況を知ることが重要である。

イ：この対応は正しい。聴覚・視覚入力の問題は理解、復唱、読字、絵カード課題などの成績に影響する。

ウ：この対応は正しい。複数の言語課題で異常があれば、詳細なプロフィールを把握するため包括評価へ進む。

エ：この対応が誤りである。失語型は言語プロフィールを評価する必要がある。

総合解説：突然の失語は脳卒中を疑う重要な神経症状であり、急性期は緊急評価が優先される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0033失語症の評価＞面接・スクリーニング | 難易度：基礎

問題

「面接・スクリーニング」の面接知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：発症前の言語能力を確認する意義を整理する：現在の成績を発症前能力や生活要求と照らして解釈するため
イ：聴覚・視覚状態を確認する必要性を整理する：感覚障害は言語検査に全く影響しないため
ウ：スクリーニング結果を包括評価につなげる：一度の低得点だけで認知症と断定する
エ：自然会話観察の価値を整理する：標準検査があれば会話評価は無意味である

答え・解説正答：ア

ア：この対応は適切である。失語症は獲得済み言語能力の障害であり、発症前の能力や使用状況を知ることが重要である。
イ：この対応は不適切である。実際には大きく影響し得る。
ウ：この対応は不適切である。鑑別評価が必要である。
エ：この対応は不適切である。日常機能を把握する上で重要である。

総合解説：面接情報は検査得点を本人の生活背景に即して解釈する基礎となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0034失語症の評価＞面接・スクリーニング | 難易度：標準

問題

「面接・スクリーニング」について聴覚・視覚状態を確認する必要性を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：スクリーニング結果を包括評価につなげる：失語症を疑い、標準検査や会話・読み書きを含む包括的言語評価を行う
イ：自然会話観察の価値を整理する：検査場面だけでは捉えにくい話題維持、修復、代償手段、伝達効率を把握できる
ウ：聴覚・視覚状態を確認する必要性を整理する：視力が低いほど失語症が重いと決められるため
エ：多言語・方言背景を評価に反映できる：発症前の各言語・方言の使用状況を確認し、本人の言語背景に合った方法で評価する

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。複数の言語課題で異常があれば、詳細なプロフィールを把握するため包括評価へ進む。
イ：この対応は正しい。機能的コミュニケーションは構造化検査と日常場面で異なることがある。
ウ：この対応が誤りである。別の機能である。
エ：この対応は正しい。文化・言語的背景を無視すると、言語差を障害と誤認したり能力を過小評価したりする。

総合解説：補聴器や眼鏡、刺激提示法を調整し、できるだけ妥当な条件で評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0035失語症の評価＞面接・スクリーニング | 難易度：応用

問題

面接・スクリーニングの関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：スクリーニング結果を包括評価につなげる：失語症を疑い、標準検査や会話・読み書きを含む包括的言語評価を行う / 自然会話観察の価値を整理する：検査場面だけでは捉えにくい話題維持、修復、代償手段、伝達効率を把握できる

イ：多言語・方言背景を評価に反映できる：一つの言語だけ正常なら他言語の困難は評価しない / 急性期の反応変動を解釈できる：全身状態は言語評価に関係しない

ウ：スクリーニングの目的を整理する：詳細評価の必要性を判断し、適切な紹介や精査につなげる / 病歴聴取で発症様式を確認する意義を整理する：発症時刻だけで失語型を完全確定できるから

エ：発症前の言語能力を確認する意義を整理する：教育歴は検査成績に影響しないから / 聴覚・視覚状態を確認する必要性を整理する：感覚障害による失敗を言語障害と誤って判断するのを避けるため

0036失語症の評価＞面接・スクリーニング | 難易度：標準

問題

「面接・スクリーニング」に関する知識を横断して確認する。自然会話観察の価値を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：自然会話観察の価値を整理する：自然会話は標準検査より常に客観的である

イ：多言語・方言背景を評価に反映できる：発症前の各言語・方言の使用状況を確認し、本人の言語背景に合った方法で評価する

ウ：急性期の反応変動を解釈できる：覚醒、疲労、注意、全身状態を記録し、必要に応じて再評価する

エ：スクリーニングの目的を整理する：詳細評価の必要性を判断し、適切な紹介や精査につなげる

答え・解説正答：ア

ア：とも正しい。複数の言語課題で異常があれば、詳細なプロフィールを把握するため包括評価へ進む。機能的コミュニケーションは構造化検査と日常場面で異なることがある。

イ：に誤りを含む。生活上必要な言語ごとの機能を考慮する。覚醒・疲労などが成績に影響する。

ウ：は正しいがに誤りがある。失語型は言語プロフィールを評価する必要がある。

エ：に誤りがある。語彙や読み書き課題に影響し得る。は正しい。

総合解説：評価は口頭言語、読み書き、機能的コミュニケーション、併存障害を含めて構成する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。両者には異なる長所がある。

イ：この対応は正しい。文化・言語的背景を無視すると、言語差を障害と誤認したり能力を過小評価したりする。

ウ：この対応は正しい。急性期は病態や覚醒度の変動が検査成績に影響するため、一時点の結果を固定的に解釈しない。

エ：この対応は正しい。スクリーニングは失語症の詳細なプロフィールや重症度を確定する検査ではなく、精査の必要性を判断する。

総合解説：標準化された能力評価と機能的なコミュニケーション評価を組み合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0037

失語症の評価 > 面接・スクリーニング | 難易度：応用

問題
「面接・スクリーニング」の文化言語的評価について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

- ア： スクリーニングの目的を整理する：訓練方法を自動的に一つへ固定する / 病歴聴取で発症様式を確認する意義を整理する：発症時刻は言語症状と無関係だから
- イ： 発症前の言語能力を確認する意義を整理する：現在の成績を発症前能力や生活要求と照らして解釈するため / 聴覚・視覚状態を確認する必要性を整理する：視力が低いほど失語症が重いと決められるため
- ウ： スクリーニング結果を包括評価につなげる：スクリーニングだけで訓練目標を固定する / 自然会話観察の価値を整理する：検査場面だけでは捉えにくい話題維持、修復、代償手段、伝達効率を把握できる
- エ： 多言語・方言背景を評価に反映できる：発症前の各言語・方言の使用状況を確認し、本人の言語背景に合った方法で評価する / 急性期の反応変動を解釈できる：覚醒、疲労、注意、全身状態を記録し、必要に応じて再評価する

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 支援計画には包括評価と本人目標が必要である。 急性脳卒中では発症時刻が特に重要である。

- イ： は正しいが に誤りがある。 別の機能である。
- ウ： に誤りがある。 詳細なニーズを把握する必要がある。 は正しい。
- エ： とも正しい。 文化・言語的背景を無視すると、言語差を障害と誤認したり能力を過小評価したりする。 急性期は病態や覚醒度の変動が検査成績に影響するため、一時点の結果を固定的に解釈しない。

総合解説：多言語・方言話者では言語歴、習熟度、使用頻度、生活上の必要性を把握する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0038

失語症の評価 > 面接・スクリーニング | 難易度：標準

問題
「面接・スクリーニング」について急性期の反応変動を解釈できるように関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：急性期の反応変動を解釈できる：変動があれば失語症は否定する
- イ：スクリーニングの目的を整理する：詳細評価の必要性を判断し、適切な紹介や精査につなげる
- ウ：病歴聴取で発症様式を確認する意義を整理する：脳卒中のような急性発症か、変性疾患のような進行性経過かを鑑別する手がかりになるため
- エ：発症前の言語能力を確認する意義を整理する：現在の成績を発症前能力や生活要求と照らして解釈するため

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。失語症と変動は併存し得る。
- イ：この対応は正しい。スクリーニングは失語症の詳細なプロフィールや重症度を確定する検査ではなく、精査の必要性を判断する。
- ウ：この対応は正しい。発症様式は原因疾患の推定と緊急度判断に重要である。
- エ：この対応は正しい。失語症は獲得済み言語能力の障害であり、発症前の能力や使用状況を知ることが重要である。

総合解説：検査条件と反応の安定性を記録し、経時的変化を追うことが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0039失語症の評価＞標準検査・プロフィール分析 | 難易度：基礎

問題

標準検査・プロフィール分析の学習で標準検査知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：標準検査の利点を整理する：検査者の判断が一切不要になる
イ：プロフィール分析の意味を整理する：全ての失語症者は同じプロフィールになる
ウ：SLTAの位置づけを整理する：日本で広く用いられる標準的な失語症検査である
エ：SLTA-STの目的を整理する：重度嚥下障害の食形態を決定する

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は不適切である。行動観察や背景情報の解釈が必要である。
イ：この対応は不適切である。個人差がある。
ウ：この対応は適切である。SLTAは日本高次脳機能学会が編集する標準失語症検査である。
エ：この対応は不適切である。嚥下評価ではない。

総合解説：SLTAは複数の言語モダリティを体系的に評価し、症状プロフィールを把握するために用いる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0040失語症の評価＞標準検査・プロフィール分析 | 難易度：標準

問題

「標準検査・プロフィール分析」に関する知識を横断して確認する。標準検査の利点を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：プロフィール分析の意味を整理する：同じ総合重症度でも、理解・表出・読み書きなどの障害構造が異なるため
イ：SLTA-STの目的を整理する：SLTAだけでは捉えにくい軽度症状や実用的言語能力を掘り下げる
ウ：標準検査と機能評価を統合できる：標準検査に加え、談話・会話・実用的コミュニケーションや職場課題を評価する
エ：標準検査の利点を整理する：どの患者にも同じ訓練法を自動決定できる

答え・解説正答：エ

ア：この対応は正しい。失語症ではモダリティや言語処理段階ごとに強みと弱みが異なる。
イ：この対応は正しい。SLTA-STは軽度失語症の症状把握や掘り下げ、実用的言語能力の検討に用いられる。
ウ：この対応は正しい。軽度失語では構造化検査で成績が良くても高負荷の実生活課題で困難が残ることがある。
エ：この対応が誤りである。治療は個別化する。

総合解説：標準検査は重要だが、会話・本人目標・生活環境と組み合わせて解釈する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0041

失語症の評価 > 標準検査・プロフィール分析 | 難易度：基礎

問題

「標準検査・プロフィール分析」のプロフィール知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：プロフィール分析の意味を整理する：同じ総合重症度でも、理解・表出・読み書きなどの障害構造が異なるため

イ：SLTA-STの目的を整理する：重度嚥下障害の食形態を決定する

ウ：標準検査と機能評価を統合できる：一つの呼称課題だけを繰り返す

エ：WABの位置づけを整理する：嚥下内視鏡検査の一種である

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。失語症ではモダリティや言語処理段階ごとに強みと弱みが異なる。

イ：この対応は不適切である。嚥下評価ではない。

ウ：この対応は不適切である。実用場面の困難を捉えられない。

エ：この対応は不適切である。言語検査である。

総合解説：プロフィールは障害仮説、予後、訓練目標、代償手段の選択に役立つ。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0042

失語症の評価 > 標準検査・プロフィール分析 | 難易度：標準

問題

「標準検査・プロフィール分析」についてSLTA-STの目的を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：標準検査と機能評価を統合できる：標準検査に加え、談話・会話・実用的コミュニケーションや職場課題を評価する

イ：WABの位置づけを整理する：失語症の複数領域を数量的・プロフィール的に評価する標準検査の一つである

ウ：経時評価で同一条件を意識できる：検査条件をできるだけそろえ、練習効果や全身状態も考慮して解釈する

エ：SLTA-STの目的を整理する：失語症の有無に関係なく全例で脳画像を代替する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。軽度失語では構造化検査で成績が良くても高負荷の実生活課題で困難が残ることがある。

イ：この対応は正しい。WABはWestern Aphasia Batteryを基に作成された日本語版失語症検査である。

ウ：この対応は正しい。再検査では成績変化が真の回復だけでなく条件差や慣れの影響を受ける。

エ：この対応が誤りである。画像検査ではない。

総合解説：補助検査は標準検査の天井効果や日常的課題の不足を補う目的で選択する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0043

失語症の評価 > 標準検査・プロフィール分析 | 難易度：応用

問題

「標準検査・プロフィール分析」の複合評価判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 標準検査と機能評価を統合できる：標準検査に加え、談話・会話・実用的コミュニケーションや職場課題を評価する / WABの位置づけを整理する：失語症の複数領域を数量的・プロフィール的に評価する標準検査の一つである

イ： 経時評価で同一条件を意識できる：毎回全く異なる採点基準を用いる / 天井効果を整理する：反響言語

ウ： 誤り分析をプロフィールに活かせる：正答数だけでなく誤りの質を分析すると、障害機序や訓練方略の違いを検討できる / 手がかり反応を動的評価に活かせる：手がかりを使うと評価が必ず無効になる

エ： 検査得点の文脈依存性を整理する：担当者の好みだけ / 標準検査の結果を訓練計画へつなげる：保たれた機能と障害された機能、本人の生活目標を照合して優先課題を決める

0044

失語症の評価 > 標準検査・プロフィール分析 | 難易度：標準

問題

「標準検査・プロフィール分析」に関する知識を横断して確認する。WABの位置づけを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：WABの位置づけを整理する：純音聴力検査の一種である

イ：経時評価で同一条件を意識できる：検査条件をできるだけそろえ、練習効果や全身状態も考慮して解釈する

ウ：天井効果を整理する：天井効果

エ：誤り分析をプロフィールに活かせる：正答数だけでなく誤りの質を分析すると、障害機序や訓練方略の違いを検討できる

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 軽度失語では構造化検査で成績が良くても高負荷の実生活課題で困難が残ることがある。 WABはWestern Aphasia Batteryを基に作成された日本語版失語症検査である。

イ： に誤りを含む。 比較可能性が低下する。 発話症状である。

ウ： は正しいが に誤りがある。 目的を明確にすれば有用な情報となる。

エ： に誤りがある。 標準化された基準と臨床情報で解釈する。 は正しい。

総合解説：能力レベルと活動・参加レベルの双方を評価することが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。聴力検査ではない。

イ：この対応は正しい。再検査では成績変化が真の回復だけでなく条件差や慣れの影響を受ける。

ウ：この対応は正しい。課題が易しすぎると軽度障害や改善を十分に捉えられないことがある。

エ：この対応は正しい。同一得点でも誤反応パターンが異なれば、語彙意味処理や音韻処理の障害仮説が異なる。

総合解説：異なる標準検査は目的や構成が異なるため、対象者と評価目的に応じて選ぶ。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0045

失語症の評価 > 標準検査・プロフィール分析 | 難易度：基礎

問題

「標準検査・プロフィール分析」の再検査知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：天井効果を整理する：反響言語
イ：誤り分析をプロフィールに活かせる：誤り分析は標準検査では行ってはいけない
ウ：経時評価で同一条件を意識できる：検査条件をできるだけそろえ、練習効果や全身状態も考慮して解釈する
エ：手がかり反応を動的評価に活かせる：正答できれば失語症は否定される

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。発話症状である。
イ：この対応は不適切である。量的得点と質的分析を併用できる。
ウ：この対応は適切である。再検査では成績変化が真の回復だけでなく条件差や慣れの影響を受ける。
エ：この対応は不適切である。手がかり依存の改善は失語症でもみられる。

総合解説：標準得点の変化だけでなく、誤り質、会話、活動・参加の変化も追跡する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0046

失語症の評価 > 標準検査・プロフィール分析 | 難易度：標準

問題

「標準検査・プロフィール分析」について天井効果を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：誤り分析をプロフィールに活かせる：正答数だけでなく誤りの質を分析すると、障害機序や訓練方略の違いを検討できる
イ：天井効果を整理する：床効果
ウ：手がかり反応を動的評価に活かせる：どの種類の支援で成績が変化するかを知り、障害仮説や訓練方略の参考にできる
エ：検査得点の文脈依存性を整理する：年齢、教育歴、使用言語、感覚・運動障害、病期、疲労などの背景情報

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。同一得点でも誤反応パターンが異なれば、語彙意味処理や音韻処理の障害仮説が異なる。
イ：この対応が誤りである。重度者で最低点付近に集中する現象である。
ウ：この対応は正しい。動的な手がかり反応は潜在的な学習可能性や有効な支援方法を示す。
エ：この対応は正しい。検査得点は対象者の背景と実施条件の影響を受ける。

総合解説：必要に応じ高難度課題、SLTA-ST、談話・実用コミュニケーション評価などを追加する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0047

失語症の評価 > 標準検査・プロフィール分析 | 難易度：応用

問題

標準検査・プロフィール分析の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 誤り分析をプロフィールに活かせる：正答数だけでなく誤りの質を分析すると、障害機序や訓練方略の違いを検討できる / 手がかり反応を動的評価に活かせる：どの種類の支援で成績が変化するかを知り、障害仮説や訓練方略の参考にできる

イ： 検査得点の文脈依存性を整理する：検査室の壁の色だけ / 標準検査の結果を訓練計画へつなげる：検査後は再評価せず同じ課題を続ける

ウ： SLTAの位置づけを整理する：日本で広く用いられる標準的な失語症検査である / 標準検査の利点を整理する：日常生活の全てを一つの得点で完全に表せる

エ： プロフィール分析の意味を整理する：総得点があれば誤り分析は不要である / SLTA-STの目的を整理する：SLTAだけでは捉えにくい軽度症状や実用的言語能力を掘り下げる

0048

失語症の評価 > 標準検査・プロフィール分析 | 難易度：標準

問題

「標準検査・プロフィール分析」に関する知識を横断して確認する。手がかり反応を動的評価に活かせるうえで誤っている対応はどれか。

ア：検査得点の文脈依存性を整理する：年齢、教育歴、使用言語、感覚・運動障害、病期、疲労などの背景情報

イ：標準検査の結果を訓練計画へつなげる：保たれた機能と障害された機能、本人の生活目標を照合して優先課題を決める

ウ：手がかり反応を動的評価に活かせる：手がかり効果は訓練選択に関係しない

エ：SLTAの位置づけを整理する：日本で広く用いられる標準的な失語症検査である

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 同一得点でも誤反応パターンが異なれば、語彙意味処理や音韻処理の障害仮説が異なる。 動的な手がかり反応は潜在的な学習可能性や有効な支援方法を示す。

イ： に誤りを含む。 通常は主要な解釈要因ではない。 経時評価で計画を調整する。

ウ： は正しいが に誤りがある。 機能的側面は別途評価が必要である。

エ： に誤りがある。 誤りの質も重要である。 は正しい。

総合解説：反応時間、自己修正、手がかり効果も障害構造の理解に役立つ。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。検査得点は対象者の背景と実施条件の影響を受ける。

イ：この対応は正しい。得点だけでなく本人のニーズと生活上の重要性を統合して目標化する。

ウ：この対応が誤りである。臨床方略の選択に役立つ。

エ：この対応は正しい。SLTAは日本高次脳機能学会が編集する標準失語症検査である。

総合解説：静的得点と動的反応を組み合わせることで個別化した治療仮説を立てる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0049失語症の評価＞標準検査・プロフィール分析 | 難易度：基礎

問題

「標準検査・プロフィール分析」の測定解釈知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：標準検査の結果を訓練計画へつなげる：検査後は再評価せず同じ課題を続ける
イ：SLTAの位置づけを整理する：聴力だけを測る検査である
ウ：検査得点の文脈依存性を整理する：年齢、教育歴、使用言語、感覚・運動障害、病期、疲労などの背景情報
エ：標準検査の利点を整理する：検査者の判断が一切不要になる

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は不適切である。経時評価で計画を調整する。
イ：この対応は不適切である。失語症の言語機能を評価する。
ウ：この対応は適切である。検査得点は対象者の背景と実施条件の影響を受ける。
エ：この対応は不適切である。行動観察や背景情報の解釈が必要である。

総合解説：得点は単独で診断を確定するものではなく、病歴・行動観察・他検査と統合する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0050失語症の評価＞標準検査・プロフィール分析 | 難易度：標準

問題

「標準検査・プロフィール分析」について標準検査の結果を訓練計画へつなげるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：SLTAの位置づけを整理する：日本で広く用いられる標準的な失語症検査である
イ：標準検査の結果を訓練計画へつなげる：最も低い得点項目を本人の希望に関係なく必ず最優先する
ウ：標準検査の利点を整理する：一定の手続き・採点基準で複数の言語機能を比較し、経時変化も追しやすい
エ：プロフィール分析の意味を整理する：同じ総合重症度でも、理解・表出・読み書きなどの障害構造が異なるため

答え・解説正答：イ

ア：この対応は正しい。SLTAは日本高次脳機能学会が編集する標準失語症検査である。
イ：この対応が誤りである。機能的価値や本人目標を考慮する。
ウ：この対応は正しい。標準化により実施・採点の一貫性とプロフィール比較がしやすくなる。
エ：この対応は正しい。失語症ではモダリティや言語処理段階ごとに強みと弱みが異なる。

総合解説：評価は治療目標、方法、代償手段、家族支援の選択に直結する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0051

失語症の評価＞鑑別・重症度・予後 | 難易度：基礎

問題
鑑別・重症度・予後の学習で鑑別知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

- ア：失語症と構音障害を鑑別できる：構音障害では必ず聴覚理解も低下する
- イ：原発性進行性失語と脳卒中後失語を区別する：必ず右片麻痺を伴うこと
- ウ：失語症と発語失行を鑑別できる：発話運動のプランニング障害か、語彙・文法・理解など言語処理の障害かを見分ける
- エ：重症度を多面的に捉える：脳画像の病変面積だけで重症度を決める

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は不適切である。言語理解は通常保たれる。
- イ：この対応は不適切である。PPAでは必須ではない。
- ウ：この対応は適切である。発語失行は運動計画、失語症は言語処理の障害である。
- エ：この対応は不適切である。行動評価が必要である。

総合解説：両者は併存し得るため、言語課題と発話運動課題を分けて評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0052

失語症の評価＞鑑別・重症度・予後 | 難易度：標準

問題
「鑑別・重症度・予後」に関する知識を横断して確認する。失語症と構音障害を鑑別できるうえで誤っている対応はどれか。

- ア：失語症と構音障害を鑑別できる：両者は同一概念で区別不要である
- イ：原発性進行性失語と脳卒中後失語を区別する：言語障害が徐々に進行する経過
- ウ：重症度を多面的に捉える：標準検査得点だけでなく、会話、日常生活、活動・参加への影響も含めて判断する
- エ：予後因子を複合的に判断できる：初期重症度、病変、年齢、全身状態、訓練、環境など複数因子を総合して考える

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。異なる障害である。
- イ：この対応は正しい。PPAは神経変性疾患に伴って言語障害が進行するのに対し、脳卒中は通常急性発症である。
- ウ：この対応は正しい。同じ検査得点でも生活環境や役割により機能的影響が異なる。
- エ：この対応は正しい。予後は一つの因子だけで確実に決められない。

総合解説：会話、書字、聴覚理解、復唱、口腔運動、発話明瞭度を組み合わせて鑑別する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0053

失語症の評価 > 鑑別・重症度・予後 | 難易度：基礎

問題

「鑑別・重症度・予後」の病因鑑別知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：重症度を多面的に捉える：脳画像の病変面積だけで重症度を決める
イ：予後因子を複合的に判断できる：年齢だけで完全に決まる
ウ：急性期の自然回復を整理する：発症直後の検査結果が生涯固定される
エ：原発性進行性失語と脳卒中後失語を区別する：言語障害が徐々に進行する経過

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。行動評価が必要である。
イ：この対応は不適切である。単一因子では決まらない。
ウ：この対応は不適切である。経時的に変化し得る。
エ：この対応は適切である。PPAは神経変性疾患に伴って言語障害が進行するのに対し、脳卒中は通常急性発症である。

総合解説：発症様式と経過は病因鑑別の基本であり、必要に応じ神経内科評価や画像検査へつなげる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0054

失語症の評価 > 鑑別・重症度・予後 | 難易度：標準

問題

「鑑別・重症度・予後」について重症度を多面的に捉えるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：予後因子を複合的に判断できる：初期重症度、病変、年齢、全身状態、訓練、環境など複数因子を総合して考える
イ：急性期の自然回復を整理する：発症後早期に大きな自然回復がみられることがあるが、その後も改善する可能性はある
ウ：聴覚障害を失語症と誤認しない：聴力、覚醒、注意、使用言語、命令理解の各要因
エ：重症度を多面的に捉える：呼称得点だけで全重症度を決定する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。予後は一つの因子だけで確実に決められない。
イ：この対応は正しい。急性期には浮腫軽減や再灌流などによる変化があり、慢性期にも学習と訓練による改善が可能である。
ウ：この対応は正しい。反応不良は言語理解障害以外でも生じる。
エ：この対応が誤りである。理解・読み書き・会話などにも必要である。

総合解説：ICFの観点では心身機能だけでなく活動・参加と環境因子を含めて捉える。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0055失語症の評価＞鑑別・重症度・予後 | 難易度：応用

問題

「鑑別・重症度・予後」の予後複合判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 聴覚障害を失語症と誤認しない：覚醒状態は検査成績に影響しない / 認知症と失語症の関係を整理する：認知症では言語障害は起こらない

イ： 予後因子を複合的に判断できる：初期重症度、病変、年齢、全身状態、訓練、環境など複数因子を総合して考える / 急性期の自然回復を整理する：発症後早期に大きな自然回復がみられることがあるが、その後も改善する可能性はある

ウ： 予後説明を症例に即して行える：現時点の重症度や回復経過から見通しを共有しつつ、個人差が大きく正確な到達点は断定できないと説明する / 重症度と生活要求の関係を整理する：検査得点と同じなら生活上の影響も必ず同じである

エ： 失語症と発語失行を鑑別できる：年齢だけで決める / 失語症と構音障害を鑑別できる：発話の明瞭度低下が主か、語の選択・文法・理解・読み書きまで障害されているか

0056失語症の評価＞鑑別・重症度・予後 | 難易度：標準

問題

「鑑別・重症度・予後」に関する知識を横断して確認する。急性期の自然回復を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：聴覚障害を失語症と誤認しない：聴力、覚醒、注意、使用言語、命令理解の各要因

イ：急性期の自然回復を整理する：慢性期の訓練は必ず無効である

ウ：認知症と失語症の関係を整理する：失語症だけでなく、認知症、せん妄、聴覚障害、教育歴などの影響も検討する

エ：予後説明を症例に即して行える：現時点の重症度や回復経過から見通しを共有しつつ、個人差が大きく正確な到達点は断定できないと説明する

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。大きく影響し得る。言語機能も障害され得る。

イ： とも正しい。予後は一つの因子だけで確実に決められない。急性期には浮腫軽減や再灌流などによる変化があり、慢性期にも学習と訓練による改善が可能である。

ウ： は正しいが に誤りがある。生活要求によって異なる。

エ： に誤りがある。年齢だけでは鑑別できない。 は正しい。

総合解説：予後説明では不確実性を伝えつつ、経時評価で目標を調整することが重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。反応不良は言語理解障害以外でも生じる。

イ：この対応が誤りである。慢性期にも効果が報告されている。

ウ：この対応は正しい。言語課題の低下は複数の原因で起こり得る。

エ：この対応は正しい。失語症の回復には個人差があり、予後を実数値で断定することはできない。

総合解説：病期ごとに評価を更新し、本人の変化に合わせて目標を調整する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0057失語症の評価＞鑑別・重症度・予後 | 難易度：基礎

問題

「鑑別・重症度・予後」の鑑別知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。ここでは「鑑別・聴力」との関連を手掛かりに整理する。

ア：聴覚障害を失語症と誤認しない：聴力、覚醒、注意、使用言語、命令理解の各要因
イ：認知症と失語症の関係を整理する：認知症では言語障害は起こらない
ウ：予後説明を症例に即して行える：慢性期になると絶対に改善しないと説明する
エ：重症度と生活要求の関係を整理する：職業は失語症支援に関係しない

答え・解説正答：ア

ア：この対応は適切である。反応不良は言語理解障害以外でも生じる。
イ：この対応は不適切である。言語機能も障害され得る。
ウ：この対応は不適切である。慢性期にも改善はあり得る。
エ：この対応は不適切である。社会参加目標に重要である。

総合解説：刺激モダリティや課題を変え、言語理解そのものの障害かを検討する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0058失語症の評価＞鑑別・重症度・予後 | 難易度：標準

問題

「鑑別・重症度・予後」について認知症と失語症の関係を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：予後説明を症例に即して行える：現時点の重症度や回復経過から見通しを共有しつつ、個人差が大きく正確な到達点は断定できないと説明する
イ：重症度と生活要求の関係を整理する：障害の影響は本人の役割や環境、活動要求によって変わるため
ウ：失語症と発語失行を鑑別できる：発話運動のプランニング障害か、語彙・文法・理解など言語処理の障害かを見分ける
エ：認知症と失語症の関係を整理する：教育歴は読み書き検査に影響しない

答え・解説正答：エ

ア：この対応は正しい。失語症の回復には個人差があり、予後を確実な数値で断定することはできない。
イ：この対応は正しい。ICFでは機能障害だけでなく活動・参加と環境因子を含めて障害を捉える。
ウ：この対応は正しい。発語失行は運動計画、失語症は言語処理の障害である。
エ：この対応が誤りである。影響し得る。

総合解説：病歴、発症様式、認知プロフィール、機能低下の経過を統合して鑑別する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0059失語症の評価＞鑑別・重症度・予後 | 難易度：応用

問題

鑑別・重症度・予後の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：失語症と発語失行を鑑別できる：声の大きさだけを比べる / 失語症と構音障害を鑑別できる：両者は同一概念で区別不要である

イ：原発性進行性失語と脳卒中後失語を区別する：言語障害が徐々に進行する経過 / 重症度を多面的に捉える：脳画像の病変面積だけで重症度を決める

ウ：予後因子を複合的に判断できる：年齢だけで完全に決まる / 急性期の自然回復を整理する：発症後早期に大きな自然回復がみられることがあるが、その後も改善する可能性はある

エ：予後説明を症例に即して行える：現時点の重症度や回復経過から見通しを共有しつつ、個人差が大きく正確な到達点は断定できないと説明する / 重症度と生活要求の関係を整理する：障害の影響は本人の役割や環境、活動要求によって変わるため

答え・解説正答：エ

ア：に誤りを含む。両者の本質的鑑別にならない。異なる障害である。

イ：は正しいがに誤りがある。行動評価が必要である。

ウ：に誤りがある。単一因子では決まらない。は正しい。

エ：とも正しい。失語症の回復には個人差があり、予後を実数値で断定することはできない。ICFでは機能障害だけでなく活動・参加と環境因子を含めて障害を捉える。

総合解説：定期的な再評価結果を家族と共有し、短期・中期目標を具体化する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0060失語症の評価＞鑑別・重症度・予後 | 難易度：標準

問題

「鑑別・重症度・予後」に関する知識を横断して確認する。重症度と生活要求の関係を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：失語症と発語失行を鑑別できる：発話運動のプランニング障害か、語彙・文法・理解など言語処理の障害かを見分ける

イ：失語症と構音障害を鑑別できる：発話の明瞭度低下が主か、語の選択・文法・理解・読み書きまで障害されているか

ウ：重症度と生活要求の関係を整理する：環境調整は言語機能と無関係なので不要である

エ：原発性進行性失語と脳卒中後失語を区別する：言語障害が徐々に進行する経過

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。発語失行は運動計画、失語症は言語処理の障害である。

イ：この対応は正しい。構音障害では言語内容が保たれる一方、失語症では言語処理自体が障害される。

ウ：この対応が誤りである。コミュニケーション参加を改善し得る。

エ：この対応は正しい。PPAは神経変性疾患に伴って言語障害が進行するのに対し、脳卒中は通常急性発症である。

総合解説：重症度は本人の生活文脈の中で機能的に解釈する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0061

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：基礎

問題

「機能訓練」の治療原則知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：Semantic Feature Analysisを整理する：聴力閾値を下げる
イ：失語症治療の個別化を整理する：障害プロフィール、本人の目標、生活場面に合わせて個別化する
ウ：音韻的手がかりを用いる訓練を整理する：血圧変化だけ
エ：Melodic Intonation Therapyの適応概念を整理する：全ての失語症に必ず第一選択となる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。聴覚リハではない。
イ：この対応は適切である。失語症治療は一律ではなく、評価で確認したニーズと本人・家族の目標に基づいて計画する。
ウ：この対応は不適切である。訓練機序ではない。
エ：この対応は不適切である。適応は個別に判断する。

総合解説：機能回復を狙う訓練と代償・参加支援を組み合わせる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0062

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：標準

問題

「機能訓練」についてSemantic Feature Analysisを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：音韻的手がかりを用いる訓練を整理する：音韻情報
イ：Semantic Feature Analysisを整理する：声帯振動を強くする
ウ：Melodic Intonation Therapyの適応概念を整理する：旋律、リズム、強勢などを用いて重度の非流暢性失語の発話表出を促す方法
エ：訓練課題と日常般化を統合して考える：会話や実生活課題への般化を評価し、文脈化した練習や自己手がかりを追加する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。語の音形に関する情報を手がかりにする。
イ：この対応が誤りである。音声訓練ではない。
ウ：この対応は正しい。MITは比較的理解が保たれた非流暢性失語で用いられることがある。
エ：この対応は正しい。訓練課題内の改善と日常コミュニケーションへの般化は別に評価する必要がある。

総合解説：語彙意味ネットワークを活用する代表的な喚語訓練である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0063

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：基礎

問題

機能訓練の学習で訓練知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：Melodic Intonation Therapyの適応概念を整理する：全ての失語症に必ず第一選択となる
イ：訓練課題と日常般化を統合して考える：絵カード得点が上がれば日常会話も必ず同程度改善するとみなす
ウ：音韻的手がかりを用いる訓練を整理する：音韻情報
エ：Script Trainingを整理する：聴力閾値だけを反復測定する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。適応は個別に判断する。
イ：この対応は不適切である。般化は自動的とは限らない。
ウ：この対応は適切である。語の音形に関する情報を手がかりにする。
エ：この対応は不適切である。言語訓練である。

総合解説：対象者によって意味の手がかりと音韻の手がかりの有効性が異なるため、反応を評価して使い分ける。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0064

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：標準

問題

「機能訓練」に関する知識を横断して確認する。Melodic Intonation Therapyの適応概念を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：Melodic Intonation Therapyの適応概念を整理する：聴力検査の測定法である
イ：訓練課題と日常般化を統合して考える：会話や実生活課題への般化を評価し、文脈化した練習や自己手がかりを追加する
ウ：Script Trainingを整理する：本人に重要な会話場面の定型的な発話系列を反復練習し、流暢性や参加を高める
エ：反復練習の意義を整理する：単なる回数だけでなく、正確性、手がかり、疲労、般化を確認しながら調整する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。言語訓練法である。
イ：この対応は正しい。訓練課題内の改善と日常コミュニケーションへの般化は別に評価する必要がある。
ウ：この対応は正しい。スクリプト訓練は個人に関連する場面の会話を反復して自動化を促す。
エ：この対応は正しい。量だけを増やすのではなく、学習効果と受容可能性を評価する。

総合解説：旋律への依存を徐々に減らし、機能的発話へつなげることを目指す。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0065失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：応用

問題

機能訓練の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 反復練習の意義を整理する：疲労しても必ず同じ高強度を継続する / 読字訓練を障害機序に合わせる：全ての失読に同じ単語リストを同じ方法で使う

イ： 訓練の効果判定を症例から行える：訓練項目への学習効果はあるが、未訓練項目や会話への般化は限定的である / 機能回復訓練と代償訓練を組み合わせる：代償手段は慢性期にしか使えない

ウ： 訓練強度のエビデンスを整理する：高強度ほど全員に必ず最適である / 本人に意味のある課題を選択する：孫との会話で使う話題・語彙・写真・会話方略を取り入れた課題

エ： 訓練課題と日常般化を統合して考える：会話や実生活課題への般化を評価し、文脈化した練習や自己手がかりを追加する / Script Trainingを整理する：本人に重要な会話場面の定型的な発話系列を反復練習し、流暢性や参加を高める

答え・解説正答：エ

ア： に誤りを含む。 高強度が全員に適するとは限らない。 障害機序の違いを無視している。

イ： は正しいが に誤りがある。 必要なら早期から検討できる。

ウ： に誤りがある。 受容性や個人差がある。 は正しい。

エ： とも正しい。 訓練課題内の改善と日常コミュニケーションへの般化は別に評価する必要がある。 スクリプト訓練は個人に関連する場面の会話を反復して自動化を促す。

総合解説：機能的成果を高めるには本人に意味のある語・場面を用い、未訓練場面への般化を確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0066失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：標準

問題

「機能訓練」についてScript Trainingを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：Script Trainingを整理する：無意味語だけをランダムに暗記する

イ：反復練習の意義を整理する：単なる回数だけでなく、正確性、手がかり、疲労、般化を確認しながら調整する

ウ：読字訓練を障害機序に合わせる：文字認知、音韻変換、語彙意味アクセスなど障害された読み過程を評価して方法を選ぶ

エ：訓練の効果判定を症例から行える：訓練項目への学習効果はあるが、未訓練項目や会話への般化は限定的である

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。本人の機能的場면을重視する。

イ：この対応は正しい。量だけを増やすのではなく、学習効果と受容可能性を評価する。

ウ：この対応は正しい。失読は一種類ではなく、障害機序に応じて訓練法を選択する。

エ：この対応は正しい。治療効果は訓練刺激への獲得と般化を分けて評価する。

総合解説：電話、注文、自己紹介など生活上重要な場면을標的にできる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0067

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：基礎

問題

機能訓練の学習で訓練原則知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。ここでは「反復練習・治療量」との関連を手掛かりに整理する。

ア：読字訓練を障害機序に合わせる：全ての失読に同じ単語リストを同じ方法で使う
イ：訓練の効果判定を症例から行える：訓練効果は完全にゼロとみなす
ウ：反復練習の意義を整理する：単なる回数だけでなく、正確性、手がかり、疲労、般化を確認しながら調整する
エ：機能回復訓練と代償訓練を組み合わせる：機能訓練を行う場合は身振りを禁止する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。障害機序の違いを無視している。
イ：この対応は不適切である。訓練語には改善がある。
ウ：この対応は適切である。量だけを増やすのではなく、学習効果と受容可能性を評価する。
エ：この対応は不適切である。コミュニケーション支援を妨げる必要はない。

総合解説：治療量・頻度・期間は個別に設定し、継続可能性を考慮する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0068

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：標準

問題

「機能訓練」に関する知識を横断して確認する。読字訓練を障害機序に合わせるうえで誤っている対応はどれか。

ア：訓練の効果判定を症例から行える：訓練項目への学習効果はあるが、未訓練項目や会話への般化は限定的である
イ：読字訓練を障害機序に合わせる：書字能力は訓練選択に関係しない
ウ：機能回復訓練と代償訓練を組み合わせる：障害機能の改善を目指す訓練と、残存機能・AACを使う代償支援を必要に応じて併用する
エ：訓練強度のエビデンスを整理する：言語聴覚療法は機能的コミュニケーションや言語能力の改善に有効で、強度や量は受容可能性を含め個別に調整する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。治療効果は訓練刺激への獲得と般化を分けて評価する。
イ：この対応が誤りである。保たれた書字を代償に使える場合がある。
ウ：この対応は正しい。回復的アプローチと代償的アプローチは排他的ではない。
エ：この対応は正しい。CochraneレビューではSLTの有効性が示され、高強度・高用量の利点の可能性と脱落の問題が報告されている。

総合解説：純粋失読では文字ごとの読みや反復読字など、残存機能を利用する方法が検討される。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0069失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：応用

問題

「機能訓練」について訓練の効果判定を症例から行えるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 訓練強度のエビデンスを整理する：治療時間は成果に一切関係しない / 本人に意味のある課題を選択する：本人が使わない専門用語だけを反復する

イ： 失語症治療の個別化を整理する：障害プロフィール、本人の目標、生活場面に合わせて個別化する / Semantic Feature Analysisを整理する：嚥下反射を誘発する

ウ： 訓練の効果判定を症例から行える：訓練項目への学習効果はあるが、未訓練項目や会話への般化は限定的である / 機能回復訓練と代償訓練を組み合わせる：障害機能の改善を目指す訓練と、残存機能・AACを使う代償支援を必要に応じて併用する

エ： 音韻的手がかりを用いる訓練を整理する：咀嚼運動だけ / Melodic Intonation Therapyの適応概念を整理する：旋律、リズム、強勢などを用いて重度の非流暢性失語の発話表出を促す方法

答え・解説正答：ウ

ア： に誤りを含む。 量・強度は検討要因である。 生活目標との関連が低い。

イ： は正しいが に誤りがある。 嚥下訓練ではない。

ウ： とも正しい。 治療効果は訓練刺激への獲得と般化を分けて評価する。 回復的アプローチと代償的アプローチは排他的ではない。

エ： に誤りがある。 言語検索とは異なる。 は正しい。

総合解説：ベースライン、訓練語、未訓練語、日常会話など複数のアウトカムを設定すると効果を解釈しやすい。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0070失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：標準

問題

「機能訓練」について機能回復訓練と代償訓練を組み合わせるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：機能回復訓練と代償訓練を組み合わせる：AACを使うと機能回復訓練は絶対にできない

イ：訓練強度のエビデンスを整理する：言語聴覚療法は機能的コミュニケーションや言語能力の改善に有効で、強度や量は受容可能性を含め個別に調整する

ウ：本人に意味のある課題を選択する：孫との会話で使う話題・語彙・写真・会話方略を取り入れた課題

エ：失語症治療の個別化を整理する：障害プロフィール、本人の目標、生活場面に合わせて個別化する

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。併用できる。

イ：この対応は正しい。CochraneレビューではSLTの有効性が示され、高強度・高用量の利点の可能性と脱落の問題が報告されている。

ウ：この対応は正しい。本人の参加目標と結びついた課題は実生活への般化と動機づけを高めやすい。

エ：この対応は正しい。失語症治療は一律ではなく、評価で確認したニーズと本人・家族の目標に基づいて計画する。

総合解説：本人のニーズ、重症度、予後、環境を考えて複数手段を組み合わせる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0071

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：基礎

問題

機能訓練の学習で治療量知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：本人に意味のある課題を選択する：本人が使わない専門用語だけを反復する
イ：失語症治療の個別化を整理する：失語型が同じなら全員同じ課題を同じ量行う
ウ：訓練強度のエビデンスを整理する：言語聴覚療法は機能的コミュニケーションや言語能力の改善に有効で、強度や量は受容可能性を含め個別に調整する
エ：Semantic Feature Analysisを整理する：聴力閾値を下げる

答え・解説

正答：ウ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0072

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：標準

問題

「機能訓練」に関する知識を横断して確認する。本人に意味のある課題を選択するうえで誤っている対応はどれか。

ア：本人に意味のある課題を選択する：検査で最も低い項目だけを機械的に選ぶ
イ：失語症治療の個別化を整理する：障害プロフィール、本人の目標、生活場面に合わせて個別化する
ウ：Semantic Feature Analysisを整理する：目標語に関連する意味特徴を活性化し、喚語を促進する
エ：音韻の手がかりを用いる訓練を整理する：音韻情報

答え・解説

正答：ア

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0071

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：基礎

問題

機能訓練の学習で治療量知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：本人に意味のある課題を選択する：本人が使わない専門用語だけを反復する
イ：失語症治療の個別化を整理する：失語型が同じなら全員同じ課題を同じ量行う
ウ：訓練強度のエビデンスを整理する：言語聴覚療法は機能的コミュニケーションや言語能力の改善に有効で、強度や量は受容可能性を含め個別に調整する
エ：Semantic Feature Analysisを整理する：聴力閾値を下げる

答え・解説

正答：ウ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0072

失語症の訓練・支援 > 機能訓練 | 難易度：標準

問題

「機能訓練」に関する知識を横断して確認する。本人に意味のある課題を選択するうえで誤っている対応はどれか。

ア：本人に意味のある課題を選択する：検査で最も低い項目だけを機械的に選ぶ
イ：失語症治療の個別化を整理する：障害プロフィール、本人の目標、生活場面に合わせて個別化する
ウ：Semantic Feature Analysisを整理する：目標語に関連する意味特徴を活性化し、喚語を促進する
エ：音韻の手がかりを用いる訓練を整理する：音韻情報

答え・解説

正答：ア

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0073失語症の訓練・支援 > 代償手段・AAC | 難易度：基礎

問題

「代償手段・AAC」のAAC知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：ローテクAACを整理する：嚥下内視鏡
イ：マルチモーダルコミュニケーションを整理する：文字が使えるれば理解確認は不要である
ウ：AACの定義を整理する：発話や言語の不足を補助または代替するため、身振り、文字、絵、機器などをを用いるコミュニケーション手段
エ：AAC導入時期を整理する：慢性期になるまで必ず禁止する

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は不適切である。嚥下検査機器である。
イ：この対応は不適切である。理解確認は必要である。
ウ：この対応は適切である。AACはaugmentative and alternative communicationの略で、既存の発話を補う場合も置き換える場合もある。
エ：この対応は不適切である。早期から使用できる。

総合解説：AACはローテクからハイテクまで幅広く、本人の能力と環境に合わせて選択する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0074失語症の訓練・支援 > 代償手段・AAC | 難易度：標準

問題

「代償手段・AAC」についてローテクAACを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：マルチモーダルコミュニケーションを整理する：発話だけに限定せず、身振り、描画、文字、写真、指さしなど複数手段を組み合わせる
イ：ローテクAACを整理する：MRI装置
ウ：AAC導入時期を整理する：コミュニケーション需要を満たせない場合は病期にかかわらず早期から検討できる
エ：AAC選択を本人・環境に合わせる：運動・視覚・認知・言語能力と使用場面を評価し、アクセスしやすい表示や操作方法を選ぶ

答え・解説正答：イ

ア：この対応は正しい。失語症では残存するモダリティを組み合わせることで伝達を支援できる。
イ：この対応が誤りである。画像診断装置である。
ウ：この対応は正しい。AACに固定的な前提条件はなく、必要性に応じて導入を検討する。
エ：この対応は正しい。AACは単に語量を載せるだけでなく、アクセス方法と環境適合性が重要である。

総合解説：ローテクAACは電源を必要とせず、使いやすさと携帯性に利点がある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0075失語症の訓練・支援 > 代償手段・AAC | 難易度：基礎

問題

代償手段・AACの学習で代償知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：AAC導入時期を整理する：慢性期になるまで必ず禁止する
イ：AAC選択を本人・環境に合わせる：利き手が麻痺していても操作方法を変えない
ウ：AACの会話運用を整理する：本人だけが使い方を知れば十分である
エ：マルチモーダルコミュニケーションを整理する：発話だけに限定せず、身振り、描画、文字、写真、指さしなど複数手段を組み合わせる

答え・解説正答：エ

ア：この対応は不適切である。早期から使用できる。
イ：この対応は不適切である。アクセス方法を調整する。
ウ：この対応は不適切である。相手側の支援も重要である。
エ：この対応は適切である。失語症では残存するモダリティを組み合わせることで伝達を支援できる。

総合解説：コミュニケーション成功を優先し、本人が使いやすい手段を柔軟に活用する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0076失語症の訓練・支援 > 代償手段・AAC | 難易度：標準

問題

「代償手段・AAC」に関する知識を横断して確認する。AAC導入時期を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：AAC選択を本人・環境に合わせる：運動・視覚・認知・言語能力と使用場面を評価し、アクセスしやすい表示や操作方法を選ぶ
イ：AACの会話運用を整理する：本人と家族が実際の会話で使う練習をし、内容や配置を更新する
ウ：伝達確認をAACと組み合わせられる：痛む部位や程度を選択肢・指さして確認し、本人の意図を検証する
エ：AAC導入時期を整理する：電子機器を操作できる人だけが対象である

答え・解説正答：エ

ア：この対応は正しい。AACは単に語量を載せるだけでなく、アクセス方法と環境適合性が重要である。
イ：この対応は正しい。AACは作成するだけでなく、会話相手を含めた使用訓練が必要である。
ウ：この対応は正しい。AACで得たメッセージも確認しながら相互理解を成立させることが重要である。
エ：この対応が誤りである。ローテクも含め多様な方法がある。

総合解説：AACは一時的・長期的いずれにも用いられ、本人の能力変化に合わせて更新する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0077

失語症の訓練・支援 > 代償手段・AAC | 難易度：応用

問題

代償手段・AACの関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

- ア：伝達確認をAACと組み合わせられる：一度の指さしだけで詳細を推測し確認しない / AACと参加支援を統合する：検査得点だけを上げること
- イ：AAC選択を本人・環境に合わせる：運動・視覚・認知・言語能力と使用場面を評価し、アクセスしやすい表示や操作方法を選ぶ / AACの会話運用を整理する：本人と家族が実際の会話で使う練習をし、内容や配置を更新する
- ウ：AACの定義を整理する：発話や言語の不足を補助または代替するため、身振り、文字、絵、機器などを用いるコミュニケーション手段 / ローテクAACを整理する：MRI装置
- エ：マルチモーダルコミュニケーションを整理する：身振りを使うと失語症が悪化する / AAC導入時期を整理する：コミュニケーション需要を満たせない場合は病期にかかわらず早期から検討できる

答え・解説

正答：イ

- ア：に誤りを含む。誤解防止のため確認する。日常コミュニケーションが目的である。
- イ：とも正しい。AACは単に語彙を載せるだけでなく、アクセス方法と環境適合性が重要である。AACは作成するだけでなく、会話相手を含めた使用訓練が必要である。
- ウ：は正しいがに誤りがある。画像診断装置である。
- エ：に誤りがある。そのような根拠はない。は正しい。

総合解説：シンボルサイズ、配置、入力方法、携帯性、本人の語彙ニーズを個別化する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0078

失語症の訓練・支援 > 代償手段・AAC | 難易度：標準

問題

「代償手段・AAC」についてAACの会話運用を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：AACの会話運用を整理する：作成後は内容を変更してはいけない
- イ：伝達確認をAACと組み合わせられる：痛む部位や程度を選択肢・指さしで確認し、本人の意図を検証する
- ウ：AACと参加支援を統合する：本人が必要な相手・場面で意思や情報を伝え、社会参加を高めること
- エ：AACの定義を整理する：発話や言語の不足を補助または代替するため、身振り、文字、絵、機器などを用いるコミュニケーション手段

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。生活変化に合わせて更新する。
- イ：この対応は正しい。AACで得たメッセージも確認しながら相互理解を成立させることが重要である。
- ウ：この対応は正しい。AACの価値は機器操作そのものではなく、機能的コミュニケーションと参加の改善にある。
- エ：この対応は正しい。AACはaugmentative and alternative communicationの略で、既存の発話を補う場合も置き換える場合もある。

総合解説：使用頻度やコミュニケーション成功を確認し、使いやすさを改善する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0079

失語症の訓練・支援 > 代償手段・AAC | 難易度：応用

問題

「代償手段・AAC」のAAC症例判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

- ア： AACの定義を整理する：発話能力が完全に消失した人だけの方法 / ローテクAACを整理する：補聴器のみ
- イ： マルチモーダルコミュニケーションを整理する：発話だけに限定せず、身振り、描画、文字、写真、指さしなど複数手段を組み合わせる / AAC導入時期を整理する：電子機器を操作できる人だけが対象である
- ウ： AAC選択を本人・環境に合わせる：最も高価な機器を自動的に選ぶ / AACの会話運用を整理する：本人と家族が実際の会話で使う練習をし、内容や配置を更新する
- エ： 伝達確認をAACと組み合わせられる：痛む部位や程度を選択肢・指さしで確認し、本人の意図を検証する / AACと参加支援を統合する：本人が必要な相手・場面で意思や情報を伝え、社会参加を高めること

答え・解説

正答：エ

- ア： に誤りを含む。 発話を補助する目的でも使用できる。 聴覚補助機器でありAACそのものではない。
- イ： は正しいが に誤りがある。 ローテクも含め多様な方法がある。
- ウ： に誤りがある。 費用と機能は適合性と同義ではない。 は正しい。
- エ： とも正しい。 AACで得たメッセージも確認しながら相互理解を成立させることが重要である。 AACの価値は機器操作そのものではなく、機能的コミュニケーションと参加の改善にある。

総合解説：肯定・否定、選択肢、キーワード記述などを組み合わせて確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0080

失語症の訓練・支援 > 代償手段・AAC | 難易度：標準

問題

「代償手段・AAC」に関する知識を横断して確認する。AACと参加支援を統合するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：AACの定義を整理する：発話や言語の不足を補助または代替するため、身振り、文字、絵、機器などを用いるコミュニケーション手段
- イ：AACと参加支援を統合する：機器の操作速度だけを最大化すること
- ウ：ローテクAACを整理する：写真・絵・文字を載せたコミュニケーションノート
- エ：マルチモーダルコミュニケーションを整理する：発話だけに限定せず、身振り、描画、文字、写真、指さしなど複数手段を組み合わせる

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。AACはaugmentative and alternative communicationの略で、既存の発話を補う場合も置き換える場合もある。
- イ：この対応が誤りである。コミュニケーション成果が重要である。
- ウ：この対応は正しい。紙媒体のノートやコミュニケーションボードは代表的なローテクAACである。
- エ：この対応は正しい。失語症では残存するモダリティを組み合わせることで伝達を支援できる。

総合解説：AAC目標は本人の活動・参加目標と結びつける。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0081

失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：基礎

問題

「家族支援・社会参加」の家族支援知識を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：会話パートナー訓練を整理する：誤りをその都度強く指摘する
イ：家族支援の役割を整理する：失語症の特徴、伝わりやすい会話方法、利用できる社会資源を説明し、家族自身の負担にも配慮する
ウ：本人中心の目標設定を整理する：全患者に同じ目標を設定する
エ：環境調整の具体例を整理する：本人の意向を聞かず家族だけ出席させる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。会話意欲を低下させることがある。
イ：この対応は適切である。家族は主要なコミュニケーション相手であり、情報提供と会話支援が重要である。
ウ：この対応は不適切である。個別化が必要である。
エ：この対応は不適切である。本人参加を優先する。

総合解説：本人と家族をパートナーとして支援計画を共有する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0082

失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：標準

問題

「家族支援・社会参加」について会話パートナー訓練を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：本人中心の目標設定を整理する：「近所の友人との会話を再開する」など本人に意味のある活動を具体的に目標化する
イ：会話パートナー訓練を整理する：返答を待たずに代わりに全て答える
ウ：環境調整の具体例を整理する：事前に議題とキーワード資料を渡し、発言時間を確保し、必要に応じ文字や図で補助する
エ：社会参加と機能訓練を統合できる：訓練を継続しつつ、実際の買い物や交流場面を想定した練習、会話支援、参加機会を組み込む

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。参加目標は本人の価値や生活役割に基づいて設定する。
イ：この対応が誤りである。本人の発話機会を奪う。
ウ：この対応は正しい。環境側を調整することで活動・参加の制約を軽減できる。
エ：この対応は正しい。言語機能改善だけでなく活動・参加と心理面を含む支援が必要である。

総合解説：確認質問、キーワード記述、選択肢提示などを個別に使い分ける。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0083失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：基礎

問題

家族支援・社会参加の学習で参加目標知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：環境調整の具体例を整理する：本人の意向を聞かず家族だけ出席させる
イ：本人中心の目標設定を整理する：「近所の友人との会話を再開する」など本人に意味のある活動を具体的に目
標化する
ウ：社会参加と機能訓練を統合できる：呼称得点だけ見て支援終了する
エ：失語症者本人への意思決定支援を整理する：長い専門用語だけで一度説明する

答え・解説正答：イ

ア：この対応は不適切である。本人参加を優先する。
イ：この対応は適切である。参加目標は本人の価値や生活役割に基づいて設定する。
ウ：この対応は不適切である。生活上の参加制約が残っている。
エ：この対応は不適切である。理解支援が必要である。

総合解説：言語機能の改善と社会参加の改善を並行して評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重
要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0084失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：標準

問題

「家族支援・社会参加」に関する知識を横断して確認する。環境調整の具体例を理解するうえで誤っている対応は
どれか。

ア：社会参加と機能訓練を統合できる：訓練を継続しつつ、実際の買い物や交流場面を想定した練習、会話支援、
参加機会を組み込む
イ：失語症者本人への意思決定支援を整理する：短い文、図、キーワード、選択肢を用いて理解を支え、本人の意
思を確認する
ウ：環境調整の具体例を整理する：発言機会をなくす
エ：家族の代弁と本人参加のバランスを整理する：本人の応答時間を確保する方法を家族と練習し、必要な時だけ
補助するよう調整する

答え・解説正答：ウ

ア：この対応は正しい。言語機能改善だけでなく活動・参加と心理面を含む支援が必要である。
イ：この対応は正しい。言語障害があっても本人の意思決定参加を最大限支援する必要がある。
ウ：この対応が誤りである。参加を制限する。
エ：この対応は正しい。過度な代弁は本人の会話機会や自己決定を減らすことがある。

総合解説：ICFでは環境因子は促進因子にも阻害因子にもなり得る。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重
要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0085

失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：応用

問題

「家族支援・社会参加」の参加支援複合判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 家族の代弁と本人参加のバランスを整理する：家族の代弁をさらに増やす / 失語症グループの意義を整理する：検査得点だけを競うことを目的とする

イ： 社会参加と機能訓練を統合できる：訓練を継続しつつ、実際の買い物や交流場面を想定した練習、会話支援、参加機会を組み込む / 失語症者本人への意思決定支援を整理する：短い文、図、キーワード、選択肢を用いて理解を支え、本人の意思を確認する

ウ： 復職支援を症例に即して計画できる：実際の職務要求を評価し、模擬電話・文書課題、職場への合理的な環境調整、段階的復帰を検討する / 長期支援の必要性を整理する：2年経過したら全ての支援を終了しなければならない

エ： 家族支援の役割を整理する：家族には失語症について説明しない / 会話パートナー訓練を整理する：短く分かりやすく話し、十分に待ち、身振りや文字を使い、理解を確認する

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 本人の参加機会を減らす。 機能的・社会的成果が重要である。

イ： とも正しい。 言語機能改善だけでなく活動・参加と心理面を含む支援が必要である。 言語障害があっても本人の意思決定参加を最大限支援する必要がある。

ウ： は正しいが に誤りがある。 必要性に応じ継続できる。

エ： に誤りがある。 理解促進が重要である。 は正しい。

総合解説：小さな成功体験と環境調整を積み重ね、本人が望む社会役割への復帰を支援する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0086

失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：標準

問題

「家族支援・社会参加」について失語症者本人への意思決定支援を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：失語症者本人への意思決定支援を整理する：家族の同意だけで常に十分とする

イ：家族の代弁と本人参加のバランスを整理する：本人の応答時間を確保する方法を家族と練習し、必要な時だけ補助するよう調整する

ウ：失語症グループの意義を整理する：実際の会話機会、同じ経験を持つ人との交流、社会参加や自己効力感の向上

エ：復職支援を症例に即して計画できる：実際の職務要求を評価し、模擬電話・文書課題、職場への合理的な環境調整、段階的復帰を検討する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。本人の意思確認を支援する。

イ：この対応は正しい。過度な代弁は本人の会話機会や自己決定を減らすことがある。

ウ：この対応は正しい。グループは機能訓練だけでなく社会的つながりを支える。

エ：この対応は正しい。復職支援では言語機能と職務要求を具体的に照合する。

総合解説：コミュニケーションアクセスを確保することは倫理的・臨床的に重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0087

失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：基礎

問題

家族支援・社会参加の学習で家族支援知識を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：家族の代弁と本人参加のバランスを整理する：本人の応答時間を確保する方法を家族と練習し、必要な時だけ補助するよう調整する

イ：失語症グループの意義を整理する：検査得点だけを競うことを目的とする

ウ：復職支援を症例に即して計画できる：電話が苦手なら復職を一律に断念させる

エ：長期支援の必要性を整理する：慢性期では社会参加支援は無意味である

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。過度な代弁は本人の会話機会や自己決定を減らすことがある。

イ：この対応は不適切である。機能的・社会的成果が重要である。

ウ：この対応は不適切である。代替手段や調整を検討できる。

エ：この対応は不適切である。生活の質に重要である。

総合解説：本人と家族双方が成功しやすい会話ルールを共同で作る。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0088

失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：標準

問題

「家族支援・社会参加」に関する知識を横断して確認する。失語症グループの意義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：復職支援を症例に即して計画できる：実際の職務要求を評価し、模擬電話・文書課題、職場への合理的な環境調整、段階的復帰を検討する

イ：長期支援の必要性を整理する：慢性期でも本人の目標に応じて訓練、AAC、家族支援、社会参加支援を継続・再調整できる

ウ：失語症グループの意義を整理する：個別訓練を全て禁止する

エ：家族支援の役割を整理する：失語症の特徴、伝わりやすい会話方法、利用できる社会資源を説明し、家族自身の負担にも配慮する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。復職支援では言語機能と職務要求を具体的に照合する。

イ：この対応は正しい。慢性期でも言語学習や参加支援による改善は可能である。

ウ：この対応が誤りである。両者は併用できる。

エ：この対応は正しい。家族は主要なコミュニケーション相手であり、情報提供と会話支援が重要である。

総合解説：本人の希望に応じて地域活動、当事者会、オンライン交流などを紹介する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0089失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：応用

問題

家族支援・社会参加の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 家族支援の役割を整理する：家族のストレスは支援対象外とする / 会話パートナー訓練を整理する：返答を待たずに代わりに全て答える

イ： 復職支援を症例に即して計画できる：実際の職務要求を評価し、模擬電話・文書課題、職場への合理的な環境調整、段階的復帰を検討する / 長期支援の必要性を整理する：慢性期でも本人の目標に応じて訓練、AAC、家族支援、社会参加支援を継続・再調整できる

ウ： 本人中心の目標設定を整理する：「近所の友人との会話を再開する」など本人に意味のある活動を具体的に目標化する / 環境調整の具体例を整理する：本人の意向を聞かず家族だけ出席させる

エ： 社会参加と機能訓練を統合できる：呼称得点だけ見て支援終了する / 失語症者本人への意思決定支援を整理する：短い文、図、キーワード、選択肢を用いて理解を支え、本人の意思を確認する

答え・解説正答：イ

ア： に誤りを含む。 家族の負担も考慮する。 本人の発話機会を奪う。

イ： とも正しい。 復職支援では言語機能と職務要求を具体的に照合する。 慢性期でも言語学習や参加支援による改善は可能である。

ウ： は正しいが に誤りがある。 本人参加を優先する。

エ： に誤りがある。 生活上の参加制約が残っている。 は正しい。

総合解説：復職は活動・参加レベルの重要な目標であり、必要に応じ医療・福祉・職場と連携する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0090失語症の訓練・支援 > 家族支援・社会参加 | 難易度：標準

問題

「家族支援・社会参加」について長期支援の必要性を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：家族支援の役割を整理する：失語症の特徴、伝わりやすい会話方法、利用できる社会資源を説明し、家族自身の負担にも配慮する

イ：会話パートナー訓練を整理する：短く分かりやすく話し、十分に待ち、身振りや文字を使い、理解を確認する

ウ：本人中心の目標設定を整理する：「近所の友人との会話を再開する」など本人に意味のある活動を具体的に目標化する

エ：長期支援の必要性を整理する：家族のコミュニケーション方法は変更できない

答え・解説正答：エ

ア：この対応は正しい。家族は主要なコミュニケーション相手であり、情報提供と会話支援が重要である。

イ：この対応は正しい。会話相手の話し方や支援方法を変えることでコミュニケーション成功を高められる。

ウ：この対応は正しい。参加目標は本人の価値や生活役割に基づいて設定する。

エ：この対応が誤りである。長期経過に合わせ再調整できる。

総合解説：生活役割や環境は時間とともに変わるため、長期的な再評価と地域資源への接続が重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0091

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：基礎

問題

注意・記憶の学習で定義識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：注意障害の基本を整理する：必要な情報を選択・維持し、課題へ認知資源を配分する機能
イ：持続性注意を整理する：観念運動
ウ：選択性注意を整理する：手続き記憶
エ：分配性注意を整理する：失読

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。注意は選択、持続、配分など複数の側面を含む。
イ：この対応は不適切である。失行の分類に関係する。
ウ：この対応は不適切である。技能の記憶である。
エ：この対応は不適切である。読字障害である。

総合解説：高次脳機能評価では注意を単一能力ではなく、持続・選択・転換・分配などの観点からみる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0092

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：標準

問題

「注意・記憶」に関する知識を横断して確認する。持続性注意を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：持続性注意を整理する：意味記憶
イ：選択性注意を整理する：選択性注意
ウ：分配性注意を整理する：分配性注意
エ：記憶障害への外的補助を選べる：カレンダー、メモ、アラームなど外的記憶補助を生活場面に組み込む

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。一般知識の記憶である。
イ：この対応は正しい。競合刺激の中から必要な情報を選ぶ機能である。
ウ：この対応は正しい。複数課題へ注意資源を配分する能力である。
エ：この対応は正しい。外的補助は記憶障害への代表的な補償手段である。

総合解説：持続性注意の低下は作業途中の見落としや疲労による誤りにつながる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0093

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：基礎

問題

「注意・記憶」の注意下位機能を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：分配性注意を整理する：失読
イ：記憶障害への外的補助を選べる：毎回異なる場所に予定表を置く
ウ：エピソード記憶を整理する：意味記憶
エ：選択性注意を整理する：選択性注意

答え・解説

正答：エ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0094

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：標準

問題

「注意・記憶」について分配性注意を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：記憶障害への外的補助を選べる：カレンダー、メモ、アラームなど外的記憶補助を生活場面に組み込む
イ：エピソード記憶を整理する：エピソード記憶
ウ：分配性注意を整理する：再認
エ：記憶評価で生活影響をみる意義を整理する：検査成績と実生活上の困難が必ずしも一致しないため

答え・解説

正答：ウ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。読字障害である。
イ：この対応は不適切である。一貫した手掛かりになりにくい。
ウ：この対応は不適切である。一般知識の記憶である。
エ：この対応は適切である。競合刺激の中から必要な情報を選ぶ機能である。

総合解説：環境調整では不要な刺激を減らし、選択性注意への負荷を下げることもある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。外的補助は記憶障害への代表的な補償手段である。
イ：この対応は正しい。時間と場所を伴う個人的経験の記憶である。
ウ：この対応が誤りである。記憶の想起形式である。
エ：この対応は正しい。認知障害は実生活の機能課題への影響を併せて評価する必要がある。

総合解説：分配性注意の低下は二重課題場面や複雑な生活場面で表面化しやすい。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0095

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：応用

問題

注意・記憶の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 記憶評価で生活影響をみる意義を整理する：標準検査には意味がないため / 注意障害への環境調整を整理する：毎回ルールを予告なく変更する

イ： 注意と記憶の相互作用を症例から判断できる：記憶そのものだけでなく、情報入力時の注意機能も評価する / 誤りなし学習を整理する：学習内容を毎回無関係に変える

ウ： 注意障害の基本を整理する：筋力だけを指す / 持続性注意を整理する：持続性注意

エ： 記憶障害への外的補助を選べる：カレンダー、メモ、アラームなど外的記憶補助を生活場面に組み込む / エピソード記憶を整理する：エピソード記憶

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 標準検査も重要である。 遂行を不安定にしやすい。

イ： は正しいが に誤りがある。 反復学習にならない。

ウ： に誤りがある。 運動機能とは異なる。 は正しい。

エ： とも正しい。 外的補助は記憶障害への代表的な補償手段である。 時間と場所を伴う個人的経験の記憶である。

総合解説：記憶介入は本人の生活課題に即し、外的補助、ルーチン、学習方略を組み合わせる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0096

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：標準

問題

「注意・記憶」に関する知識を横断して確認する。エピソード記憶を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：記憶評価で生活影響をみる意義を整理する：検査成績と実生活上の困難が必ずしも一致しないため

イ：注意障害への環境調整を整理する：不要な刺激を減らし、課題を短く区切り、必要に応じ休憩を入れる

ウ：注意と記憶の相互作用を症例から判断できる：記憶そのものだけでなく、情報入力時の注意機能も評価する

エ：エピソード記憶を整理する：手続き記憶

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。認知障害は実生活の機能課題への影響を併せて評価する必要がある。

イ：この対応は正しい。認知負荷を調整し、注意しやすい環境を作ることが有用である。

ウ：この対応は正しい。注意が不十分だと符号化が妨げられ、記憶障害のように見えることがある。

エ：この対応が誤りである。技能・習慣の記憶である。

総合解説：記憶障害では記録・保持・想起に加え、記憶の種類ごとの差をみる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0097

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：基礎

問題

「注意・記憶」の機能評価を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：記憶評価で生活影響をみる意義を整理する：検査成績と実生活上の困難が必ずしも一致しないため
イ：注意障害への環境調整を整理する：毎回ルールを予告なく変更する
ウ：注意と記憶の相互作用を症例から判断できる：記憶検査を行わず失認と断定する
エ：誤りなし学習を整理する：外的手掛かりを一切使わない

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。認知障害は実生活の機能課題への影響を併せて評価する必要がある。
イ：この対応は不適切である。遂行を不安定にしやすい。
ウ：この対応は不適切である。根拠がない。
エ：この対応は不適切である。必要に応じて用いる。

総合解説：NICEは標準化評価と行動観察を組み合わせ、生活課題への影響を確認することを推奨している。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0098

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：標準

問題

「注意・記憶」について注意障害への環境調整を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：注意と記憶の相互作用を症例から判断できる：記憶そのものだけでなく、情報入力時の注意機能も評価する
イ：誤りなし学習を整理する：誤反応をできるだけ生じさせず、正しい反応を反復して学習する
ウ：注意障害の基本を整理する：必要な情報を選択・維持し、課題へ認知資源を配分する機能
エ：注意障害への環境調整を整理する：疲労が強くても休憩を入れない

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。注意が不十分だと符号化が妨げられ、記憶障害のように見えることがある。
イ：この対応は正しい。記憶障害では誤りを学習してしまうことを避ける目的で用いられる。
ウ：この対応は正しい。注意は選択、持続、配分など複数の側面を含む。
エ：この対応が誤りである。成績低下や安全性低下につながる。

総合解説：注意訓練は機能課題と結びつけ、環境・課題要求を調整する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0099

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：応用

問題

「注意・記憶」について注意と記憶の相互作用を症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 注意障害の基本を整理する：長期記憶だけを指す / 持続性注意を整理する：意味記憶

イ： 注意と記憶の相互作用を症例から判断できる：記憶そのものだけでなく、情報入力時の注意機能も評価する / 誤りなし学習を整理する：誤反応をできるだけ生じさせず、正しい反応を反復して学習する

ウ： 選択性注意を整理する：選択性注意 / 分配性注意を整理する：失読

エ： 記憶障害への外的補助を選べる：毎回異なる場所に予定表を置く / エピソード記憶を整理する：エピソード記憶

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 注意と記憶は関連するが同一ではない。 一般知識の記憶である。

イ： とも正しい。 注意が不十分だと符号化が妨げられ、記憶障害のように見えることがある。 記憶障害では誤りを学習してしまうことを避ける目的で用いられる。

ウ： は正しいが に誤りがある。 読字障害である。

エ： に誤りがある。 一貫した手掛かりになりにくい。 は正しい。

総合解説：高次脳機能は相互依存しており、一つの検査得点だけで原因を決めない。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0100

高次脳機能障害 > 注意・記憶 | 難易度：標準

問題

「注意・記憶」に関する知識を横断して確認する。誤りなし学習を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：注意障害の基本を整理する：必要な情報を選択・維持し、課題へ認知資源を配分する機能

イ：持続性注意を整理する：持続性注意

ウ：選択性注意を整理する：選択性注意

エ：誤りなし学習を整理する：意図的に多数の誤答を経験させる

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。注意は選択、持続、配分など複数の側面を含む。

イ：この対応は正しい。一定時間、課題への注意を保つ機能である。

ウ：この対応は正しい。競合刺激の中から必要な情報を選ぶ機能である。

エ：この対応が誤りである。誤りなし学習とは逆である。

総合解説：NICEは記憶介入例としてerrorless learningや外的補助を挙げている。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0101

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：基礎

問題

「遂行機能」の定義識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：遂行機能の概念を整理する：目標設定、計画、実行、結果の監視と修正
イ：遂行機能障害の生活像を整理する：視力が必ず失われる
ウ：自己監視を整理する：視覚失認
エ：認知的柔軟性を整理する：持続性注意だけ

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。遂行機能は目標志向的行動を組織・制御する機能である。
イ：この対応は不適切である。遂行機能障害の必須所見ではない。
ウ：この対応は不適切である。認識障害である。
エ：この対応は不適切である。同じ課題への集中維持である。

総合解説：遂行機能は前頭前野を中心とするネットワークと関連する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0102

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：標準

問題

「遂行機能」について遂行機能障害の生活像を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：自己監視を整理する：自己監視
イ：認知的柔軟性を整理する：認知的柔軟性
ウ：遂行機能障害の生活像を整理する：聴力が必ず失われる
エ：メタ認知方略を選べる：目標設定、自己チェック、問題解決手順などのメタ認知方略を具体的課題で練習する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。行動結果を監視し必要に応じて修正する遂行機能の一部である。
イ：この対応は正しい。課題要求の変化に合わせて行動方略を変える機能である。
ウ：この対応が誤りである。必須ではない。
エ：この対応は正しい。メタ認知的方略は自分の遂行を予測・監視・修正する訓練である。

総合解説：簡単な一工程課題では問題が目立たず、複雑な課題で障害が明らかになることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0103

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：基礎

問題

遂行機能の学習で遂行機能下位機能を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：認知的柔軟性を整理する：持続性注意だけ
イ：自己監視を整理する：自己監視
ウ：メタ認知方略を選べる：課題手順を毎回無作為に変更する
エ：前頭葉症状と遂行機能を整理する：必ず片側難聴だけ

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。同じ課題への集中維持である。
イ：この対応は適切である。行動結果を監視し必要に応じて修正する遂行機能の一部である。
ウ：この対応は不適切である。学習を妨げる。
エ：この対応は不適切である。代表的所見ではない。

総合解説：自己監視の低下では同じ誤りを繰り返すことがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0104

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：標準

問題

「遂行機能」に関する知識を横断して確認する。認知的柔軟性を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：メタ認知方略を選べる：目標設定、自己チェック、問題解決手順などのメタ認知方略を具体的課題で練習する
イ：認知的柔軟性を整理する：相貌認知
ウ：前頭葉症状と遂行機能を整理する：計画性低下、脱抑制、意欲低下などの遂行・行動調整障害
エ：遂行機能評価で実生活課題をみる意義を整理する：構造化検査では捉えにくい計画・自己管理上の困難を把握できるため

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。メタ認知の方略は自分の遂行を予測・監視・修正する訓練である。
イ：この対応が誤りである。顔を認識する機能である。
ウ：この対応は正しい。前頭葉症候群では遂行機能、行動、動機づけの障害がみられる。
エ：この対応は正しい。遂行機能障害は自由度の高い複雑な生活課題で目立つことがある。

総合解説：柔軟性低下では保続やルール変更への対応困難がみられることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0105

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：応用

問題

「遂行機能」についてメタ認知方略を選べるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 遂行機能評価で実生活課題をみる意義を整理する：標準検査は一切不要だから / 外的手掛かりを使う意義を整理する：失認を必ず治癒させる

イ： 遂行機能障害を症例から判断できる：遂行機能障害 / 遂行機能訓練の汎化を整理する：本人の目標を確認しない

ウ： 遂行機能の概念を整理する：発声筋力だけ / 遂行機能障害の生活像を整理する：手順を立てて複数工程の家事を最後まで行うことが難しい

エ： メタ認知方略を選べる：目標設定、自己チェック、問題解決手順などのメタ認知方略を具体的課題で練習する / 前頭葉症状と遂行機能を整理する：計画性低下、脱抑制、意欲低下などの遂行・行動調整障害

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 標準検査も有用である。 治癒を保証しない。

イ： は正しいが に誤りがある。 参加意欲や適合性を損なう。

ウ： に誤りがある。 運動機能である。 は正しい。

エ： とも正しい。 メタ認知的方略は自分の遂行を予測・監視・修正する訓練である。 前頭葉症候群では遂行機能、行動、動機づけの障害がみられる。

総合解説：遂行機能への介入は、代償と機能改善を本人の臨床像に応じて組み合わせる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0106

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：標準

問題

「遂行機能」について前頭葉症状と遂行機能を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：遂行機能評価で実生活課題をみる意義を整理する：構造化検査では捉えにくい計画・自己管理上の困難を把握できるため

イ：前頭葉症状と遂行機能を整理する：必ず失読だけ

ウ：外的手掛かりを使う意義を整理する：手順の抜けを減らし、行動の開始・順序化・確認を外部から支える

エ：遂行機能障害を症例から判断できる：遂行機能障害

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。遂行機能障害は自由度の高い複雑な生活課題で目立つことがある。

イ：この対応が誤りである。局在症状として限定できない。

ウ：この対応は正しい。外的手掛かりは遂行機能の負荷を補償する。

エ：この対応は正しい。計画、優先順位、柔軟性、自己監視の障害が示唆される。

総合解説：前頭葉症候群は単一症状ではなく、回路に応じ多様な認知・行動変化を示す。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0107

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：基礎

問題

遂行機能の学習で評価原則を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：外的手掛かりを使う意義を整理する：失認を必ず治癒させる
イ：遂行機能評価で実生活課題をみる意義を整理する：構造化検査では捉えにくい計画・自己管理上の困難を把握できるため
ウ：遂行機能障害を症例から判断できる：純粹な視覚失認
エ：遂行機能訓練の汎化を整理する：訓練室だけで無関係な課題を繰り返す

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。治癒を保証しない。
イ：この対応は適切である。遂行機能障害は自由度の高い複雑な生活課題で目立つことがある。
ウ：この対応は不適切である。物体認識障害の記載ではない。
エ：この対応は不適切である。生活への転移が乏しくなる可能性がある。

総合解説：検査、観察、本人・家族情報を統合して生活上の障害を評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0108

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：標準

問題

「遂行機能」に関する知識を横断して確認する。外的手掛かりを使う意義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：遂行機能障害を症例から判断できる：遂行機能障害
イ：遂行機能訓練の汎化を整理する：実際の生活・就労課題に近い場面で同じ方略を繰り返し使う
ウ：遂行機能の概念を整理する：目標設定、計画、実行、結果の監視と修正
エ：外的手掛かりを使う意義を整理する：聴力閾値を下げる

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。計画、優先順位、柔軟性、自己監視の障害が示唆される。
イ：この対応は正しい。具体的な機能課題に結びつけることが重要である。
ウ：この対応は正しい。遂行機能は目標志向的行動を組織・制御する機能である。
エ：この対応が誤りである。聴覚治療ではない。

総合解説：書面や電子機器の手掛かりは個々の能力と課題に合わせて選ぶ。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0109

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：応用

問題

「遂行機能」の症例統合について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

- ア： 遂行機能の概念を整理する：視力だけ / 遂行機能障害の生活像を整理する：聴力が必ず失われる
- イ： 遂行機能障害を症例から判断できる：遂行機能障害 / 遂行機能訓練の汎化を整理する：実際の生活・就労課題に近い場面で同じ方略を繰り返し使う
- ウ： 自己監視を整理する：自己監視 / 認知的柔軟性を整理する：持続性注意だけ
- エ： メタ認知方略を選べる：課題手順を毎回無作為に変更する / 前頭葉症状と遂行機能を整理する：計画性低下、脱抑制、意欲低下などの遂行・行動調整障害

答え・解説

正答：イ

- ア： に誤りを含む。 視覚入力である。 必須ではない。
- イ： とも正しい。 計画、優先順位、柔軟性、自己監視の障害が示唆される。 具体的な機能課題に結びつけることが重要である。
- ウ： は正しいが に誤りがある。 同じ課題への集中維持である。
- エ： に誤りがある。 学習を妨げる。 は正しい。

総合解説：遂行機能障害は構造化された場面では目立たないことがあるため、職場情報も重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0110

高次脳機能障害 > 遂行機能 | 難易度：標準

問題

「遂行機能」について遂行機能訓練の汎化を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：遂行機能の概念を整理する：目標設定、計画、実行、結果の監視と修正
- イ：遂行機能障害の生活像を整理する：手順を立てて複数工程の家事を最後まで行うことが難しい
- ウ：遂行機能訓練の汎化を整理する：環境因子を一切考えない
- エ：自己監視を整理する：自己監視

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は正しい。遂行機能は目標志向的行動を組織・制御する機能である。
- イ：この対応は正しい。計画・順序化・自己監視の障害が生活課題へ影響する。
- ウ：この対応が誤りである。環境調整も重要である。
- エ：この対応は正しい。行動結果を監視し必要に応じて修正する遂行機能の一部である。

総合解説：認知リハでは機能障害だけでなく活動・参加レベルの目標を設定する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0111

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：基礎

問題

失行・失認・半側空間無視の学習で定義識別を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：観念運動失行を整理する：純粹な感覚麻痺
イ：失行の定義を整理する：筋力・感覚・理解などが保たれていても、学習された目的動作を適切に遂行できない状態
ウ：観念失行を整理する：相貌失認
エ：失認の定義を整理する：筋力低下だけ

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。所見が異なる。
イ：この対応は適切である。失行は高次の運動プログラミング・行為系の障害である。
ウ：この対応は不適切である。顔認知障害である。
エ：この対応は不適切である。運動障害である。

総合解説：失行の診断では麻痺、感覚障害、理解障害、協調障害などを除外する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0112

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：標準

問題

「失行・失認・半側空間無視」に関する知識を横断して確認する。観念運動失行を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：観念失行を整理する：観念失行
イ：観念運動失行を整理する：相貌失認
ウ：失認の定義を整理する：一次感覚が大きく損なわれていないのに、感覚入力の対象を適切に認識できない状態
エ：相貌失認を整理する：相貌失認

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。一連の動作概念や順序化の障害として説明される。
イ：この対応が誤りである。顔認知障害である。
ウ：この対応は正しい。失認は感覚情報の高次認知処理の障害である。
エ：この対応は正しい。相貌失認は既知の顔を認識する能力の障害である。

総合解説：実物使用では改善する場合もあり、検査条件による差も重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0113

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：基礎

問題

「失行・失認・半側空間無視」の失行分類を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

- ア：失認の定義を整理する：筋力低下だけ
- イ：相貌失認を整理する：観念失行
- ウ：半側空間無視の定義を整理する：失語症と完全に同義である
- エ：観念失行を整理する：観念失行

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は不適切である。運動障害である。
- イ：この対応は不適切である。動作系列の障害である。
- ウ：この対応は不適切である。異なる障害である。
- エ：この対応は適切である。一連の動作概念や順序化の障害として説明される。

総合解説：失行の下位分類は文献で用語の揺れがあるため、実際の誤り様式を記録することが重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0114

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：標準

問題

「失行・失認・半側空間無視」について失認の定義を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：失認の定義を整理する：全般的な意識障害だけ
- イ：相貌失認を整理する：相貌失認
- ウ：半側空間無視の定義を整理する：脳病変の反対側の空間刺激に注意を向けたり反応したりしにくくなる
- エ：無視と視野障害を区別する：感覚視野の欠損だけでなく、注意の偏りや行動上の見落としを評価する

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。失認の診断には他原因の除外が必要である。
- イ：この対応は正しい。相貌失認は既知の顔を認識する能力の障害である。
- ウ：この対応は正しい。一次感覚障害だけでは説明できない空間性注意障害である。
- エ：この対応は正しい。無視は注意・空間認知の障害であり、視野欠損とは機序が異なる。

総合解説：失認は視覚、聴覚、触覚などモダリティ別にみられる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0115

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：応用

問題

「失行・失認・半側空間無視」の失認の複合判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 無視と視野障害を区別する：日常行動を観察しない / 視覚探索訓練を整理する：常に右側だけを見るよう促す

イ： 半側空間無視をADLから判断できる：左半側空間無視 / 失行・失認評価の原則を整理する：日常生活への影響を無視する

ウ： 相貌失認を整理する：相貌失認 / 半側空間無視の定義を整理する：脳病変の反対側の空間刺激に注意を向けたり反応したりしにくくなる

エ： 失行の定義を整理する：筋力低下だけで動けない状態 / 観念運動失行を整理する：観念運動失行

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 無視は生活場面で顕著になる。 無視を強める可能性がある。

イ： は正しいが に誤りがある。 機能障害の把握に重要である。

ウ： とも正しい。 相貌失認は既知の顔を認識する能力の障害である。 一次感覚障害だけでは説明できない空間性注意障害である。

エ： に誤りがある。 麻痺とは異なる。 は正しい。

総合解説：相貌失認では声や服装など非顔情報を手掛かりに人物を認識できることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0116

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：標準

問題

「失行・失認・半側空間無視」に関する知識を横断して確認する。半側空間無視の定義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：無視と視野障害を区別する：感覚視野の欠損だけでなく、注意の偏りや行動上の見落としを評価する

イ：視覚探索訓練を整理する：左側へ意図的に視線を走査するよう手掛かりを用いて練習する

ウ：半側空間無視の定義を整理する：必ず両側の空間を同程度に無視する

エ：半側空間無視をADLから判断できる：左半側空間無視

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。無視は注意・空間認知の障害であり、視野欠損とは機序が異なる。

イ：この対応は正しい。視覚探索訓練は無視側への注意配分を促す代表的方略である。

ウ：この対応が誤りである。典型的には病変対側に強い。

エ：この対応は正しい。対側空間の刺激に気づきにくい典型的な生活所見である。

総合解説：右半球病変後の左側無視が典型的だが、病態は多様である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0117

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：基礎

問題

「失行・失認・半側空間無視」の鑑別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：視覚探索訓練を整理する：常に右側だけを見るよう促す
イ：半側空間無視をADLから判断できる：純粹失読
ウ：失行・失認評価の原則を整理する：誤反応の原因を一切確認しない
エ：無視と視野障害を区別する：感覚視野の欠損だけでなく、注意の偏りや行動上の見落としを評価する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。無視を強める可能性がある。
イ：この対応は不適切である。読字障害である。
ウ：この対応は不適切である。誤診につながる。
エ：この対応は適切である。無視は注意・空間認知の障害であり、視野欠損とは機序が異なる。

総合解説：机上検査とADL観察を組み合わせることが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0118

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：標準

問題

「失行・失認・半側空間無視」について視覚探索訓練を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：視覚探索訓練を整理する：視覚課題を一切行わない
イ：半側空間無視をADLから判断できる：左半側空間無視
ウ：失行・失認評価の原則を整理する：一次的な運動・感覚障害、理解障害、全般的認知低下など別の原因を除外する
エ：失行の定義を整理する：筋力・感覚・理解などが保たれていても、学習された目的動作を適切に遂行できない状態

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。機能課題への介入が必要である。
イ：この対応は正しい。対側空間の刺激に気づきにくい典型的な生活所見である。
ウ：この対応は正しい。高次脳機能障害の診断には、課題失敗を他の要因で説明できないか確認する。
エ：この対応は正しい。失行は高次の運動プログラミング・行為系の障害である。

総合解説：NICEは視覚性無視への例として無視側へのスキャン、音手掛かり、課題反復等を挙げる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0119

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：応用

問題

失行・失認・半側空間無視の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 失行の定義を整理する：聴力低下だけで指示を聞けない状態 / 観念運動失行を整理する：相貌失認

イ： 観念失行を整理する：観念失行 / 失認の定義を整理する：筋力低下だけ

ウ： 相貌失認を整理する：観念失行 / 半側空間無視の定義を整理する：脳病変の反対側の空間刺激に注意を向けたり反応したりしにくくなる

エ： 半側空間無視をADLから判断できる：左半側空間無視 / 失行・失認評価の原則を整理する：一次的な運動・感覚障害、理解障害、全般的認知低下など別の原因を除外する

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 聴覚障害とは異なる。 顔認知障害である。

イ： は正しいが に誤りがある。 運動障害である。

ウ： に誤りがある。 動作系列の障害である。 は正しい。

エ： とも正しい。 対側空間の刺激に気づきにくい典型的な生活所見である。 高次脳機能障害の診断には、課題失敗を他の要因で説明できないか確認する。

総合解説：無視は食事、整容、移動、読字など複数の生活活動に影響する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0120

高次脳機能障害 > 失行・失認・半側空間無視 | 難易度：標準

問題

「失行・失認・半側空間無視」に関する知識を横断して確認する。失行・失認評価の原則を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：失行・失認評価の原則を整理する：単一課題だけで必ず確定する

イ：失行の定義を整理する：筋力・感覚・理解などが保たれていても、学習された目的動作を適切に遂行できない状態

ウ：観念運動失行を整理する：観念運動失行

エ：観念失行を整理する：観念失行

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。複数課題・モダリティが必要である。

イ：この対応は正しい。失行は高次の運動プログラミング・行為系の障害である。

ウ：この対応は正しい。観念運動失行では命令や模倣による学習動作の遂行が障害される。

エ：この対応は正しい。一連の動作概念や順序化の障害として説明される。

総合解説：検査成績、神経学的所見、生活場面を統合して判断する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0121

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：基礎

問題

「認知症の症候・鑑別」の定義識別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：Alzheimer病の特徴を整理する：一時的な意識混濁だけ
イ：血管性認知症を整理する：声帯病変
ウ：認知症の定義を整理する：疾患により認知機能が低下し、日常生活に支障が生じる状態
エ：Lewy小体型認知症の特徴を整理する：失語だけが必須

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。せん妄などを考える。
イ：この対応は不適切である。認知症の原因ではない。
ウ：この対応は適切である。日本の認知症基本法でも、疾患により日常生活に支障が生じる程度まで認知機能が低下した状態とされる。
エ：この対応は不適切である。必須ではない。

総合解説：認知症は病名ではなく、複数疾患により生じる臨床状態である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0122

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：標準

問題

「認知症の症候・鑑別」についてAlzheimer病の特徴を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：血管性認知症を整理する：脳血管障害により脳への血流・酸素供給が障害されること
イ：Lewy小体型認知症の特徴を整理する：認知機能の変動、具体的な幻視、パーキンソニズム
ウ：認知症とせん妄を区別できる：せん妄
エ：Alzheimer病の特徴を整理する：視力低下だけ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。血管性認知症は血管病変に関連して認知機能が低下する。
イ：この対応は正しい。これらはLewy小体型認知症の代表的特徴である。
ウ：この対応は正しい。急性発症、注意障害、意識・症状の変動はせん妄を示唆する。
エ：この対応が誤りである。認知症の中心症状ではない。

総合解説：進行とともに言語、遂行機能、視空間機能なども障害され得る。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0123

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：基礎

問題

認知症の症候・鑑別の学習で疾患特徴を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：Lewy小体型認知症の特徴を整理する：失語だけが必須
イ：認知症とせん妄を区別できる：正常加齢
ウ：血管性認知症を整理する：脳血管障害により脳への血流・酸素供給が障害されること
エ：前頭側頭型認知症を整理する：必ず片麻痺が初発する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。必須ではない。
イ：この対応は不適切である。急性の注意・意識変化は正常加齢ではない。
ウ：この対応は適切である。血管性認知症は血管病変に関連して認知機能が低下する。
エ：この対応は不適切である。必須ではない。

総合解説：病変部位や広がりにより認知プロフィールは多様である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0124

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：標準

問題

「認知症の症候・鑑別」に関する知識を横断して確認する。Lewy小体型認知症の特徴を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：認知症とせん妄を区別できる：せん妄
イ：前頭側頭型認知症を整理する：人格・行動の変化や言語機能の障害
ウ：Lewy小体型認知症の特徴を整理する：純粋な難聴だけ
エ：認知症鑑別で薬剤歴を確認する意義を整理する：薬剤が認知・注意・意識に影響し、症状の原因や増悪因子になることがあるため

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。急性発症、注意障害、意識・症状の変動はせん妄を示唆する。
イ：この対応は正しい。前頭・側頭葉の変性により行動型や言語型の症候を呈する。
ウ：この対応が誤りである。中核症状ではない。
エ：この対応は正しい。診断では処方薬・市販薬を含む薬剤情報を確認する。

総合解説：REM睡眠行動障害や自律神経症状もみられることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0125

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：応用

問題

認知症の症候・鑑別の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 認知症とせん妄を区別できる：せん妄 / 前頭側頭型認知症を整理する：人格・行動の変化や言語機能の障害

イ： 認知症鑑別で薬剤歴を確認する意義を整理する：認知症は必ず画像だけで診断するから / 認知症と抑うつを鑑別する：抑うつがあれば認知症は絶対にないから

ウ： Lewy小体型認知症を症例から判断できる：Lewy小体型認知症 / 正常加齢と認知症を区別する：検査得点を生活状況と切り離す

エ： 認知症の定義を整理する：聴力低下だけを認知症とする / Alzheimer病の特徴を整理する：新しい出来事を覚えにくいエピソード記憶障害

0126

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：標準

問題

「認知症の症候・鑑別」について前頭側頭型認知症を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：認知症鑑別で薬剤歴を確認する意義を整理する：薬剤が認知・注意・意識に影響し、症状の原因や増悪因子になることがあるため

イ：前頭側頭型認知症を整理する：必ず記憶障害だけが最初に出る

ウ：認知症と抑うつを鑑別する：抑うつが認知症に似た認知症状を示したり、認知症に併存したりするため

エ：Lewy小体型認知症を症例から判断できる：Lewy小体型認知症

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 急性発症、注意障害、意識・症状の変動はせん妄を示唆する。 前頭・側頭葉の変性により行動型や言語型の症候を呈する。

イ： に誤りを含む。 総合診断が必要である。 併存し得る。

ウ： は正しいが に誤りがある。 生活機能の確認が重要である。

エ： に誤りがある。 認知機能障害とは異なる。 は正しい。

総合解説：認知症患者にもせん妄は併発し得るため、急性変化では身体要因・薬剤等を評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。診断では処方薬・市販薬を含む薬剤情報を確認する。

イ：この対応が誤りである。初期像はAlzheimer病と異なることがある。

ウ：この対応は正しい。精神状態の評価は認知低下の原因・併存症の把握に重要である。

エ：この対応は正しい。認知変動、幻視、パーキンソニズムの組合せは典型的である。

総合解説：発症年齢が比較的若いこともあり、精神疾患との鑑別が課題になる場合がある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0127

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：基礎

問題

認知症の症候・鑑別の学習で鑑別原則を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：認知症鑑別で薬剤歴を確認する意義を整理する：薬剤が認知・注意・意識に影響し、症状の原因や増悪因子になることがあるため
イ：認知症と抑うつを鑑別する：抑うつがあれば認知症は絶対でないから
ウ：Lewy小体型認知症を症例から判断できる：純粋なAlzheimer病だけ
エ：正常加齢と認知症を区別する：年齢だけで決める

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。診断では処方薬・市販薬を含む薬剤情報を確認する。
イ：この対応は不適切である。併存し得る。
ウ：この対応は不適切である。この組合せはLBDを強く示唆する。
エ：この対応は不適切である。年齢だけでは診断できない。

総合解説：NIAは病歴、薬剤、日常機能、認知検査、身体・精神評価等を組み合わせるとしている。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0128

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：標準

問題

「認知症の症候・鑑別」に関する知識を横断して確認する。認知症と抑うつを鑑別するうえで誤っている対応はどれか。

ア：Lewy小体型認知症を症例から判断できる：Lewy小体型認知症
イ：正常加齢と認知症を区別する：認知変化が日常生活・社会生活の自立にどの程度影響しているか
ウ：認知症の定義を整理する：疾患により認知機能が低下し、日常生活に支障が生じる状態
エ：認知症と抑うつを鑑別する：抑うつと認知機能は無関係だから

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。認知変動、幻視、パーキンソニズムの組合せは典型的である。
イ：この対応は正しい。認知症では認知低下が生活機能へ明確な支障を与える。
ウ：この対応は正しい。日本の認知症基本法でも、疾患により日常生活に支障が生じる程度まで認知機能が低下した状態とされる。
エ：この対応が誤りである。関連がある。

総合解説：診断は単一検査でなく医学的・神経心理学的情報を統合する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0129

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：応用

問題

「認知症の症候・鑑別」についてLewy小体型認知症を症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 認知症の定義を整理する：意識障害だけを認知症とする / Alzheimer病の特徴を整理する：視力低下だけ

イ： 血管性認知症を整理する：脳血管障害により脳への血流・酸素供給が障害されること / Lewy小体型認知症の特徴を整理する：失語だけが必須

ウ： Lewy小体型認知症を症例から判断できる：Lewy小体型認知症 / 正常加齢と認知症を区別する：認知変化が日常生活・社会生活の自立にどの程度影響しているか

エ： 認知症とせん妄を区別できる：正常加齢 / 前頭側頭型認知症を整理する：人格・行動の変化や言語機能の障害

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 せん妄とは区別する。 認知症の中心症状ではない。

イ： は正しいが に誤りがある。 必須ではない。

ウ： とも正しい。 認知変動、幻視、パーキンソニズムの組合せは典型的である。 認知症では認知低下が生活機能へ明確な支障を与える。

エ： に誤りがある。 急性の注意・意識変化は正常加齢ではない。 は正しい。

総合解説：病型鑑別は治療・支援・薬剤反応の見通しにも関係する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0130

認知症・総合高次脳機能 > 認知症の症候・鑑別 | 難易度：標準

問題

「認知症の症候・鑑別」について正常加齢と認知症を区別するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：認知症の定義を整理する：疾患により認知機能が低下し、日常生活に支障が生じる状態

イ：正常加齢と認知症を区別する：物忘れが一度でもあれば認知症とする

ウ：Alzheimer病の特徴を整理する：新しい出来事を覚えにくいエピソード記憶障害

エ：血管性認知症を整理する：脳血管障害により脳への血流・酸素供給が障害されること

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。日本の認知症基本法でも、疾患により日常生活に支障が生じる程度まで認知機能が低下した状態とされる。

イ：この対応が誤りである。正常加齢でも物忘れはある。

ウ：この対応は正しい。Alzheimer病では近時記憶・新規学習の障害が早期から目立つことが多い。

エ：この対応は正しい。血管性認知症は血管病変に関連して認知機能が低下する。

総合解説：病歴、認知検査、生活機能、身体・精神状態を総合する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0131

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：基礎

問題

評価・訓練の学習で評価原則を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：認知スクリーニングの限界を整理する：カットオフ未満なら必ず同じ病型である
イ：家族からの情報を評価に用いる意義を整理する：検査を省略するため
ウ：認知症評価の構成を整理する：病歴、日常生活、認知検査、身体・神経学的評価、必要な検査を総合する
エ：認知刺激療法を整理する：本人の好みを無視した活動

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。病型までは決められない。
イ：この対応は不適切である。補助情報として用いる。
ウ：この対応は適切である。認知症は単一検査だけで診断しない。
エ：この対応は不適切である。本人中心支援に反する。

総合解説：NIAは本人・家族への聴取、認知検査、医学的検査、精神状態評価等を挙げる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0132

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：標準

問題

「評価・訓練」に関する知識を横断して確認する。認知スクリーニングの限界を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：認知スクリーニングの限界を整理する：聴覚障害は得点に影響しない
イ：家族からの情報を評価に用いる意義を整理する：発症前からの変化や日常生活での実際の困難を把握しやすいため
ウ：認知刺激療法を整理する：グループ認知刺激療法
エ：認知リハビリの目標を整理する：本人が重要と考える具体的な生活活動を、方略や環境調整でできるだけ維持する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。課題理解に影響し得る。
イ：この対応は正しい。本人が変化を十分自覚していない場合もあり、周囲の観察が重要である。
ウ：この対応は正しい。認知刺激療法は認知・社会的活動を組み合わせた介入である。
エ：この対応は正しい。認知リハは個別化された機能目標を中心に行う。

総合解説：認知検査は目的・対象・条件に合わせて選択し、生活情報と統合する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0133

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：基礎

問題

「評価・訓練」の評価情報を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：認知刺激療法を整理する：本人の好みを無視した活動
イ：認知リハビリの目標を整理する：本人の希望を確認しない
ウ：回想法を整理する：新しい語だけを機械的に暗記させる
エ：家族からの情報を評価に用いる意義を整理する：発症前からの変化や日常生活での実際の困難を把握しやすいため

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。本人中心支援に反する。
イ：この対応は不適切である。本人中心支援に反する。
ウ：この対応は不適切である。回想法の中心ではない。
エ：この対応は適切である。本人が変化を十分自覚していない場合もあり、周囲の観察が重要である。

総合解説：病歴は本人と信頼できる情報提供者の両方から得ることが望ましい。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0134

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：標準

問題

「評価・訓練」について認知刺激療法を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：認知リハビリの目標を整理する：本人が重要と考える具体的な生活活動を、方略や環境調整でできるだけ維持する
イ：回想法を整理する：過去の出来事や経験を写真・音楽などの手掛かりで振り返る活動
ウ：認知刺激療法を整理する：認知症治療目的の鍼治療
エ：認知症支援で残存能力を活用する意義を整理する：できることを活かし、失敗しにくい環境と手掛かりを整える

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。認知リハは個別化された機能目標を中心に行う。
イ：この対応は正しい。回想を通じて交流やウェルビーイングを支える。
ウ：この対応が誤りである。NICEは推奨していない。
エ：この対応は正しい。能力を一律に奪わず、本人の自立・参加を支えることが重要である。

総合解説：非薬物療法は認知機能だけでなくウェルビーイングや生活機能を重視する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0135

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：応用

問題

「評価・訓練」について認知リハビリの目標を理解するため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 認知症支援で残存能力を活用する意義を整理する：失敗のたびに厳しく叱る / 訓練効果の評価を整理する：検査点数だけで全て判断する

イ： 認知症評価の症例で優先事項を判断できる：認知検査だけでなく、身体疾患・薬剤・抑うつなど可逆的・併存要因も評価する / 言語聴覚士の認知症支援を整理する：病型にかかわらず同じ訓練だけを行う

ウ： 認知症評価の構成を整理する：MRIだけで必ず確定する / 認知スクリーニングの限界を整理する：教育歴、言語、感覚障害、疲労などの影響も考慮し、診断を単独で確定しない

エ： 認知リハビリの目標を整理する：本人が重要と考える具体的な生活活動を、方略や環境調整でできるだけ維持する / 回想法を整理する：過去の出来事や経験を写真・音楽などの手掛かりで振り返る活動

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 不安や意欲低下につながる。 生活上の変化を見落とす。

イ： は正しいが に誤りがある。 個別化が必要である。

ウ： に誤りがある。 画像だけでは不十分である。 は正しい。

エ： とも正しい。 認知リハは個別化された機能目標を中心に行う。 回想を通じて交流やウェルビーイングを支える。

総合解説：NICEは軽度～中等度認知症で認知リハまたは作業療法を考慮するとしている。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0136

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：標準

問題

「評価・訓練」に関する知識を横断して確認する。回想法を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：回想法を整理する：過去の話題を避ける

イ：認知症支援で残存能力を活用する意義を整理する：できることを活かし、失敗しにくい環境と手掛かりを整える

ウ：訓練効果の評価を整理する：認知検査だけでなく、生活活動、参加、本人・家族の目標達成も確認する

エ：認知症評価の症例で優先事項を判断できる：認知検査だけでなく、身体疾患・薬剤・抑うつなど可逆的・併存要因も評価する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。回想法と逆である。

イ：この対応は正しい。能力を一律に奪わず、本人の自立・参加を支えることが重要である。

ウ：この対応は正しい。認知症支援では生活機能とウェルビーイングが重要なアウトカムである。

エ：この対応は正しい。認知低下の背景には他の医学的・精神医学的要因が含まれる。

総合解説：NICEは軽度～中等度認知症でグループ回想法を考慮するとしている。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0137

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：基礎

問題

「評価・訓練」の支援原則を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：訓練効果の評価を整理する：検査点数だけで全て判断する
イ：認知症評価の症例で優先事項を判断できる：年齢だけでAlzheimer病と確定する
ウ：認知症支援で残存能力を活用する意義を整理する：できることを活かし、失敗しにくい環境と手掛かりを整える
エ：言語聴覚士の認知症支援を整理する：家族支援は職務と無関係とする

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。生活上の変化を見落とす。
イ：この対応は不適切である。不適切である。
ウ：この対応は適切である。能力を一律に奪わず、本人の自立・参加を支えることが重要である。
エ：この対応は不適切である。コミュニケーション環境の調整に家族支援は重要である。

総合解説：支援は尊厳・希望・意思を尊重し、環境との相互作用を調整する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0138

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：標準

問題

「評価・訓練」について訓練効果の評価を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：認知症評価の症例で優先事項を判断できる：認知検査だけでなく、身体疾患・薬剤・抑うつなど可逆的・併存要因も評価する
イ：訓練効果の評価を整理する：本人の感想を一切聞かない
ウ：言語聴覚士の認知症支援を整理する：コミュニケーション機能を評価し、本人・家族に合う会話方法や代償手段を提案する
エ：認知症評価の構成を整理する：病歴、日常生活、認知検査、身体・神経学的評価、必要な検査を総合する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。認知低下の背景には他の医学的・精神医学的要因が含まれる。
イ：この対応が誤りである。本人中心支援に反する。
ウ：この対応は正しい。言語聴覚士は言語・コミュニケーション・嚥下を含む機能支援を担う。
エ：この対応は正しい。認知症は単一検査だけで診断しない。

総合解説：ICFの活動・参加の視点を含め、多面的に効果をみる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0139

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：応用

問題

「評価・訓練」の症例統合について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 認知症評価の構成を整理する：認知検査1回だけで病型まで確定する / 認知スクリーニングの限界を整理する：聴覚障害は得点に影響しない

イ： 家族からの情報を評価に用いる意義を整理する：発症前からの変化や日常生活での実際の困難を把握しやすいため / 認知刺激療法を整理する：本人の好みを無視した活動

ウ： 認知リハビリの目標を整理する：本人の希望を確認しない / 回想法を整理する：過去の出来事や経験を写真・音楽などの手掛かりで振り返る活動

エ： 認知症評価の症例で優先事項を判断できる：認知検査だけでなく、身体疾患・薬剤・抑うつなど可逆的・併存要因も評価する / 言語聴覚士の認知症支援を整理する：コミュニケーション機能を評価し、本人・家族に合う会話方法や代償手段を提案する

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 総合評価が必要である。 課題理解に影響し得る。

イ： は正しいが に誤りがある。 本人中心支援に反する。

ウ： に誤りがある。 本人中心支援に反する。 は正しい。

エ： とも正しい。 認知低下の背景には他の医学的・精神医学的要因が含まれる。 言語聴覚士は言語・コミュニケーション・嚥下を含む機能支援を担う。

総合解説：認知症診断では他疾患を除外し、原因と併存症を総合的に評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0140

認知症・総合高次脳機能 > 評価・訓練 | 難易度：標準

問題

「評価・訓練」に関する知識を横断して確認する。言語聴覚士の認知症支援を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：認知症評価の構成を整理する：病歴、日常生活、認知検査、身体・神経学的評価、必要な検査を総合する

イ：言語聴覚士の認知症支援を整理する：診断や支援計画を単独で全て決定する

ウ：認知スクリーニングの限界を整理する：教育歴、言語、感覚障害、疲労などの影響も考慮し、診断を単独で確定しない

エ：家族からの情報を評価に用いる意義を整理する：発症前からの変化や日常生活での実際の困難を把握しやすいため

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。認知症は単一検査だけで診断しない。

イ：この対応が誤りである。多職種連携が必要である。

ウ：この対応は正しい。スクリーニングは精査の必要性を判断する手段である。

エ：この対応は正しい。本人が変化を十分自覚していない場合もあり、周囲の観察が重要である。

総合解説：認知症では機能訓練だけでなく、相手の理解を助ける会話環境の調整も重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0141

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：基礎

問題

「生活・就労・地域支援」の法制度を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

- ア：地域生活支援の考え方を整理する：障害特性を考慮しない
- イ：就労支援の連携先を整理する：家族のみで全て対応する
- ウ：高次脳機能障害者支援法の基本方向を整理する：医療・リハビリから生活・社会参加まで切れ目なく支援する
- エ：職場復帰支援を整理する：以前と同じ多重課題を支援なしで即再開する

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は不適切である。個別性が重要である。
- イ：この対応は不適切である。専門機関との連携が必要である。
- ウ：この対応は適切である。高次脳機能障害者の自立と社会参加を生活全般にわたり支える考え方である。
- エ：この対応は不適切である。失敗リスクが高い。

総合解説：高次脳機能障害は外見から分かりにくいため、地域で連続した支援体制が重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0142

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：標準

問題

「生活・就労・地域支援」について地域生活支援の考え方を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：就労支援の連携先を整理する：ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターなど
- イ：地域生活支援の考え方を整理する：一律に施設入所のみを選択する
- ウ：職場復帰支援を整理する：業務を構造化し、チェックリストや時間管理ツール、上司の確認などを導入する
- エ：本人中心の支援を整理する：本人の意思・希望を確認し、能力と環境を調整して社会参加を支える

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。高次脳機能障害者支援法はこれら関係機関相互の連携を明記している。
- イ：この対応が誤りである。本人の希望・状態に応じる必要がある。
- ウ：この対応は正しい。環境調整と外的手掛かりは遂行機能の負荷を補償できる。
- エ：この対応は正しい。本人中心・参加重視の支援が法制度とICF双方の考え方に合う。

総合解説：支援は本人の生活目標と地域資源を結びつける。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0143

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：基礎

問題

生活・就労・地域支援の学習で就労支援を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：就労支援の連携先を整理する：ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターなど
イ：職場復帰支援を整理する：以前と同じ多重課題を支援なしで即再開する
ウ：本人中心の支援を整理する：できないことだけに注目する
エ：家族支援の意義を整理する：家族への説明は不要だから

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。高次脳機能障害者支援法はこれら関係機関相互の連携を明記している。
イ：この対応は不適切である。失敗リスクが高い。
ウ：この対応は不適切である。残存能力や環境因子も重要である。
エ：この対応は不適切である。理解促進は重要である。

総合解説：就労では職務調整、定着支援、生活支援を連携して行う。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0144

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：標準

問題

「生活・就労・地域支援」に関する知識を横断して確認する。職場復帰支援を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：本人中心の支援を整理する：本人の意思・希望を確認し、能力と環境を調整して社会参加を支える
イ：家族支援の意義を整理する：本人の生活を支える家族にも情報・負担・対応上の課題が生じるため
ウ：職場復帰支援を整理する：勤務中の休憩を禁止する
エ：認知症基本法の理念を整理する：認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らし、社会参加できる共生社会を目指す

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。本人中心・参加重視の支援が法制度とICF双方の考え方に合う。
イ：この対応は正しい。障害特性の理解と具体的な対応方法の共有が必要である。
ウ：この対応が誤りである。疲労・注意低下に配慮する。
エ：この対応は正しい。同法は本人の意思、権利、地域生活、社会参加を重視する。

総合解説：職場復帰は機能回復だけでなく、仕事内容・環境との適合が重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0145

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：応用

問題

「生活・就労・地域支援」の生活支援の複合判断について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 認知症基本法の理念を整理する：医療だけで完結させる / 多職種・多機関連携を整理する：本人を会議から常に除外する

イ： 就労上の見えにくい障害を症例から判断できる：高次脳機能障害の特性を評価し、職務調整と外的補助、定着支援を組み合わせる / 地域支援の長期性を整理する：認知機能は環境の影響を受けないから

ウ： 本人中心の支援を整理する：本人の意思・希望を確認し、能力と環境を調整して社会参加を支える / 家族支援の意義を整理する：本人の生活を支える家族にも情報・負担・対応上の課題が生じるため

エ： 高次脳機能障害者支援法の基本方向を整理する：教育との連携を行わない / 地域生活支援の考え方を整理する：障害特性と本人の希望に応じ、生活訓練、住まい、社会参加などを組み合わせる

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 福祉・地域・雇用等との総合的取組を求める。 本人中心支援に反する。

イ： は正しいが に誤りがある。 環境との相互作用が重要である。

ウ： とも正しい。 本人中心・参加重視の支援が法制度とICF双方の考え方に合う。 障害特性の理解と具体的な対応方法の共有が必要である。

エ： に誤りがある。 教育的支援も対象である。 は正しい。

総合解説：ICFでは心身機能だけでなく活動・参加・環境因子を含めて支援を考える。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0146

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：標準

問題

「生活・就労・地域支援」について家族支援の意義を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：認知症基本法の理念を整理する：認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らし、社会参加できる共生社会を目指す

イ：多職種・多機関連携を整理する：医療、福祉、就労、教育、行政などが本人の目標を共有して連携する

ウ：就労上の見えにくい障害を症例から判断できる：高次脳機能障害の特性を評価し、職務調整と外的補助、定着支援を組み合わせる

エ：家族支援の意義を整理する：家族は症状に影響しないため

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。同法は本人の意思、権利、地域生活、社会参加を重視する。

イ：この対応は正しい。生活上の課題は単一機関だけでは解決しにくい。

ウ：この対応は正しい。見えにくい認知障害は職場で初めて明確になることがある。

エ：この対応が誤りである。生活環境として大きく関与する。

総合解説：家族の負担評価と相談先の確保も長期支援の一部である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0147

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：基礎

問題

生活・就労・地域支援の学習で法制度を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：多職種・多機関連携を整理する：本人を会議から常に除外する
イ：認知症基本法の理念を整理する：認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らし、社会参加できる共生社会を目指す
ウ：就労上の見えにくい障害を症例から判断できる：努力不足と判断して支援を終了する
エ：地域支援の長期性を整理する：退院時に全ての課題が必ず解決するから

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。本人中心支援に反する。
イ：この対応は適切である。同法は本人の意思、権利、地域生活、社会参加を重視する。
ウ：この対応は不適切である。障害特性を見落とす。
エ：この対応は不適切である。退院後に新たな課題が出ることもある。

総合解説：2024年1月施行の認知症基本法は共生社会の実現を目的とする。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0148

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：標準

問題

「生活・就労・地域支援」に関する知識を横断して確認する。多職種・多機関連携を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：多職種・多機関連携を整理する：各機関が情報共有せず別々に支援する
イ：就労上の見えにくい障害を症例から判断できる：高次脳機能障害の特性を評価し、職務調整と外的補助、定着支援を組み合わせる
ウ：地域支援の長期性を整理する：生活環境や役割の変化により新しい困難が顕在化することがあるため
エ：高次脳機能障害者支援法の基本方向を整理する：医療・リハビリから生活・社会参加まで切れ目なく支援する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。支援の一貫性が損なわれる。
イ：この対応は正しい。見えにくい認知障害は職場で初めて明確になることがある。
ウ：この対応は正しい。支援ニーズは医療期、生活期、就労・社会参加期で変化する。
エ：この対応は正しい。高次脳機能障害者の自立と社会参加を生活全般にわたり支える考え方である。

総合解説：必要な範囲で情報共有し、役割分担と目標を明確にする。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0149

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：応用

問題

生活・就労・地域支援の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 就労上の見えにくい障害を症例から判断できる：高次脳機能障害の特性を評価し、職務調整と外的補助、定着支援を組み合わせる / 地域支援の長期性を整理する：生活環境や役割の変化により新しい困難が顕在化することがあるため

イ： 高次脳機能障害者支援法の基本方向を整理する：就労支援を除外する / 地域生活支援の考え方を整理する：一律に施設入所のみを選択する

ウ： 就労支援の連携先を整理する：ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターなど / 職場復帰支援を整理する：以前と同じ多重課題を支援なしで即再開する

エ： 本人中心の支援を整理する：できないことだけに注目する / 家族支援の意義を整理する：本人の生活を支える家族にも情報・負担・対応上の課題が生じるため

0150

認知症・総合高次脳機能 > 生活・就労・地域支援 | 難易度：標準

問題

「生活・就労・地域支援」について地域支援の長期性を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：高次脳機能障害者支援法の基本方向を整理する：医療・リハビリから生活・社会参加まで切れ目なく支援する

イ：地域生活支援の考え方を整理する：障害特性と本人の希望に応じ、生活訓練、住まい、社会参加などを組み合わせる

ウ：就労支援の連携先を整理する：ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターなど

エ：地域支援の長期性を整理する：地域資源は利用しないほうがよいから

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 見えにくい認知障害は職場で初めて明確になることがある。 支援ニーズは医療期、生活期、就労・社会参加期で変化する。

イ： に誤りを含む。 就労支援も規定される。 本人の希望・状態に応じる必要がある。

ウ： は正しいが に誤りがある。 失敗リスクが高い。

エ： に誤りがある。 残存能力や環境因子も重要である。 は正しい。

総合解説：復職支援では仕事内容、疲労、認知負荷、周囲の理解を具体的に調整する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。高次脳機能障害者の自立と社会参加を生活全般にわたり支える考え方である。

イ：この対応は正しい。法は地域で自立した生活を営めるよう必要な支援を求めている。

ウ：この対応は正しい。高次脳機能障害者支援法はこれら関係機関相互の連携を明記している。

エ：この対応が誤りである。地域資源の活用が重要である。

総合解説：切れ目ない支援とは、段階ごとのニーズに応じて支援を更新することを含む。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08